喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

県営畑地帯総合土地改良事業（島中地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

島中B遺跡

1989年3月

鹿児島県大島郡喜界町教育委員会

序　　文

わが喜界島は，新世代第３紀鮮新世の島尻層を基盤に琉球石灰岩，志戸桶層，隆起珊瑚礁，砂丘の地層から形成された島です。

本町における埋蔵文化財の最初の発掘調査は昭和32年九学会によって行われ，荒木農道遺跡，巌島神社などいくつかが発見され，縄文後期の土器片，石斧，貝器，骨器等が，また喜界高校々庭からは縄文前期の轟式土器に類似した土器片が出土しています。

そうした中で，昭和61年度には先山遺跡発掘と熊本大学によるハンタ遺跡の発掘調査がなされ大きく前進した年でありました。

今回は，「県営畑地帯総合土地改良事業（島中地区）」の実施に伴い「島中Ｂ遺跡発掘調査事業」として文化庁並びに県教育委員会の指導援助を得て発掘調査を実施することができました。

本書は，その報告書であります。この調査結果が土地改良事業実施にあたって適切に活用されるよう念願するとともに，文化財保護に活用いただければ幸いです。

尚，炎天下のもと大変なご尽力をくださった県文化課の調査員の先生方をはじめ，指導者，作業協力者及び協力いただいた地主の方々に厚くお礼申し上げます。

平成元年３月

喜界町教育委員会

教育長　折　田　国　雄

例　　言

1．この報告書は県営畑地帯総合土地改良事業（島中地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本書で用いたレベル数値はすべて海抜絶対高である。

3．遺物番号は出土遺物，表採遺物すべて通し番号とし，挿図，図版とも一致する。

4．本書の執筆，編集は井ノ上が行った。

5．遺物は喜界町教育委員会で保管し，展示・活用する。

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
第Ⅰ章　調査の経過 …… 5
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 5
　第２節　調査の組織 …… 5
　第３節　調査の経過と概要 …… 5
第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境 …… 8
第Ⅲ章　層　位 …… 13
第Ⅳ章　各トレンチの調査 …… 16
第Ⅴ章　まとめにかえて …… 32

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡 …… 11
第２図　土層模式柱状図 …… 13
第３図　遺跡周辺の地形図 …… 14
第４図　トレンチ配置図 …… 15
第５図　１トレンチ …… 16
第６図　１トレンチ出土遺物 …… 17
第７図　２，３トレンチ …… 18
第８図　２，３トレンチ出土遺物 …… 19
第９図　４，５，６トレンチ …… 20
第10図　７，８トレンチ …… 21
第11図　６，７，８トレンチ出土遺物 …… 22
第12図　９，10，12トレンチ …… 23
第13図　11トレンチ …… 24
第14図　９，10，12トレンチ出土遺物 …… 25
第15図　13，14，15トレンチ …… 26
第16図　13，14，15トレンチ出土遺物 …… 27
第17図　16，17，18，19，20，22トレンチ …… 28
第18図　21トレンチ …… 29
第19図　16，17，18，21トレンチ出土遺物 …… 30
第20図　表採遺物 …… 31
第21図　施工計画図 …… 33

図　版　目　次

図版１　遺跡遠景（南から遺跡を望む)･遺跡近景 …… 35
図版２　調査風景（７トレンチ)･調査風景（８トレンチ） …… 36
図版３　１トレンチ溝状遺構検出状況・６トレンチ遺物出土状況 …… 37
図版４　７トレンチ遺物出土状況・７トレンチ土層断面 …… 38
図版５　８トレンチ・９トレンチ落ち込み断面 …… 39
図版６　９トレンチ落ち込み完掘状況・11トレンチ落ち込み断面 …… 40
図版７　11トレンチ落ち込み完掘状況・12トレンチ土層断面 …… 41
図版８　13トレンチ遺物出土状況・15トレンチ遺物出土状況 …… 42
図版９　16トレンチ遺物出土状況・19トレンチ土層断面 …… 43
図版10　20トレンチ土層断面・21トレンチ遺物出土状況 …… 44
図版11　出土遺物 …… 45
図版12　出土遺物・出土石器 …… 46
図版13　出土遺物 …… 47
図版14　出土遺物 …… 48
図版15　出土遺物 …… 49
図版16　出土遺物 …… 50
図版17　出土遺物・滝川小学校遺跡見学会 …… 51

第Ⅰ章　調査の経過

第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会（以下県文化課）では，県下の市町村教育委員会と連携し，文化財の保存・活用をはかるため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し，諸開発との調整をはかっている。

この事前協議制に基づき，鹿児島県農政部農地整備課（喜界土地改良出張所）は，喜界町内において「県営畑地帯総合土地改良事業（島中地区）」を計画し，事業区域内の埋蔵文化財の有無について県文化課に照会した。

これをうけて，昭和62年４月当該地区の埋蔵文化財分布調査を県文化課及び喜界町教育委員会社会教育課（以下町社会教育課）と合同で実施した。

分布調査の結果，当該事業区域内に土器片の散布を確認したため，文化財の保存と事業の推進との調整に資することを目的として，国及び県の助成を得て，喜界町教育委員会が調査主体となり，発掘調査を実施することとなった。調査は県文化課に依頼し，昭和63年５月９日から６月２日まで実施した。

第2節　調査の組織

調査主体者	喜界町教育委員会		
調査責任者	〃	教育長	折田国雄
調査事務	〃	社会教育課長	太利博美
	〃	〃　課長補佐	築園清光
	〃	社会教育主事	坂元洋三
	〃	社会教育指導員	西島昭雄
調査担当者	鹿児島県教育庁文化課	文化財研究員	鶴田静彦
	〃	主事	井ノ上秀文
調査指導者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳

なお，調査企画等において，県教育庁文化課長・吉井浩一，同課長補佐・奥園義則，同主幹立園多賀生，同文化財研究員兼埋蔵文化財係長・吉元正幸，同企画助成係長・京田秀允，同係の各氏の指導・助言を得た。

第3節　調査の経過と概要

発掘調査は，昭和62年に遺物の散布を確認し，遺跡の範囲と考えられる地域に，合計22箇所のトレンチを設定して実施した。トレンチの大きさは地形などを考慮して，２×４ｍを基本としたが，場所によっては２×２ｍとしたものもある。また，基本トレンチの発掘調査により拡張の必要が認められた箇所については，任意に拡張して調査を継続した。

遺跡内には地表面に類須恵器や染付等の細片が少量散布していた。調査の結果，耕作や個人による造成等により，包含層まで削平されている部分もかなりあった。場所によっては表土の下はサンゴとなる部分も数箇所あった。遺物はⅡ，Ⅲ層から類須恵器，青磁，白磁，染付等が出土した。Ⅵ層からは時期不明の土器片が出土するトレンチが数箇所あった。遺構は焼土や木炭片が入った落ち込み等が確認されたがその時期や性格などは明らかでない。

以下，発掘調査の経過については日誌抄により略述する。

5月9日（月）　町教育委員会にて調査の打合せ。発掘用具運搬，点検。作業員に調査上の留意点等の説明。1，2，3トレンチ設定，掘り下げ。

5月10日（火）　1，2，3トレンチ掘り下げ。

5月11日（水）　1，2，3トレンチ掘り下げ，出土状況写真撮影，トレンチ位置図作成。3トレンチ遺物出土状況実測，遺物とりあげ。4トレンチ設定，掘り下げ。

5月12日（木）　1，2，3トレンチ掘り下げ。1トレンチで落ち込みらしきものを確認したので東側を1×5m拡張。2トレンチ遺物出土状況実測，遺物とりあげ。4トレンチ土層断面写真撮影。

5月13日（金）　1トレンチ遺物出土状況写真撮影，実測，遺物とりあげ。2，3トレンチ土層断面写真撮影。5，6，7トレンチ設定，掘り下げ。

5月14日（土）　1トレンチ落ち込み掘り下げ，写真撮影。2，3，4トレンチ土層断面実測。6，7トレンチ掘り下げ。6トレンチ遺物出土状況写真撮影。8，9トレンチ設定，掘り下げ。

5月16日（月）　1トレンチ落ち込み部分実測。6，7，8，9トレンチ掘り下げ。6トレンチ遺物出土状況実測，遺物とりあげ。9トレンチで焼土らしきものを確認したので北側2×1m，西側2×1m拡張，掘り下げ。10トレンチ設定，掘り下げ。

5月17日（火）　雨のため作業中止。今後の調査計画等について町教育委員会で打合せ。5トレンチ土層断面実側。

5月18日（水）　1トレンチ落ち込み部分実測。6，8，9，10トレンチ掘り下げ。7トレンチ遺物出土状況実測。8トレンチ土層断面実測。9トレンチ焼土部分断面実測。11トレンチ設定，掘り下げ。8，9，10，11トレンチ位置図作成。

5月19日（木）　1トレンチ落ち込み部分確認のための小トレンチ設定，掘り下げ。6トレンチ土層断面写真撮影，実測。7，8，9，11トレンチ掘り下げ。8トレンチ土層断面実測。

5月20日（金）　1トレンチ落ち込み部分土層断面写真撮影，実測。7，9，11トレンチ掘り下げ。9トレンチ土層断面実測。11トレンチで落ち込み確認，写真撮影，掘り下げ。

5月23日（月）　7トレンチ掘り下げ。9，11トレンチ清掃。12，13トレンチ設定，掘り下げ2，3，4，5，6，8トレンチ埋め戻し。

5月24日（火）　1トレンチ土層断面写真撮影，実測。7，12，13トレンチ掘り下げ。7トレンチ上層遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ。9トレンチ土層断面写真撮影。11トレンチ落ち込み部分範囲確認のため拡張。

5月25日（水）　雨のため作業中止。町教育委員会にて打合せ。土地改良出張所に現在の状況を説明。

5月26日（木）　10トレンチ遺物出土状況実測，遺物取り上げ，土層断面写真撮影。12トレンチ土層断面写真撮影，実測。14，15，16トレンチ設定，掘り下げ。

5月27日（金）　11トレンチ落ち込み掘り下げ，写真撮影，実測。13，14，15，16トレンチ掘り下げ。14トレンチ土層断面写真撮影。16トレンチ遺物出土状況写真撮影。17トレンチ設定，掘り下げ。

5月28日（土）　7，13，15，17トレンチ掘り下げ。10，11，16トレンチ土層断面実測。11，16，17トレンチ土層断面写真撮影。15，16トレンチ遺物出土状況実測。18トレンチ設定，掘り下げ。

5月30日（月）　7トレンチ掘り下げ，遺物出土状況実測。13トレンチ掘り下げ，遺物出土状況写真撮影，実測。14トレンチ土層断面実測。15トレンチ遺物出土状況実測，土層断面写真撮影，実測。17トレンチ土層断面実測。18トレンチ掘り下げ。19，20，21，22トレンチ設定，掘り下げ。

5月31日（火）　7トレンチ遺物出土状況写真撮影，遺物とりあげ，掘り下げ。18，19，20，21，22トレンチ掘り下げ。19，20，22トレンチ土層断面写真撮影，実測。9，11，12，14，16，17トレンチ埋め戻し。

6月1日（水）　7，18，21トレンチ掘り下げ，土層断面実測。13トレンチ土層断面実測。18トレンチ土層断面写真撮影。21トレンチ遺物出土状況写真撮影。9，13，15トレンチ埋め戻し。

6月2日（木）　7，21トレンチ清掃，土層断面写真撮影。1，7，18，19，20，21，22トレンチ埋め戻し。発掘用具水洗い後点検，運搬，収納。発掘調査終了。

6月6日（月）から県文化課埋蔵文化財収蔵庫において整理作業を行う。

第 Ⅱ 章　　遺跡の位置及び環境

島中Ｂ遺跡は，鹿児島県大島郡喜界町島中に所在する。

遺跡の所在する喜界町は，奄美群島の中の１つの喜界島に位置しており，１島で１町をなしている。

喜界島は鹿児島からおよそ 380 km南に位置しており，奄美大島からはおよそ42km東方に位置している。北東から南西にかけて細長い島で，長さはおよそ14kmである。北東部から南西部にかけてしだいに幅を広げ，最大幅はおよそ８kmである。島の周囲は約48km，西積は約56km²である。

喜界島は概して平坦な隆起珊瑚礁の島で，島の中央東側の百之台で標高 224 m である。この百之台を中心に北西側へは緩やかに傾斜し，60m ～10m の広い段丘地形が見られる。一方，これにたいして，南東部は急崖となり，海岸線にそってわずかな平坦地が見られるのみである。

河川の発達に乏しく，用水はそのほとんどを地下水や湧水に依存している。

気候は亜熱帯性気候で，年平均気温23℃と年間を通じて温暖であり，年降水量も 2,100 mmに達する。全島，ガジュマル等の常緑樹におおわれており，ブーゲンビリアやハイビスカスが咲きみだれ，特に，新緑の頃には自生のグラジオラスや白ユリが彩りをそえている。

本島の基盤をなしているのは，新生代第三期鮮新世の島尻層で，琉球石灰岩，志戸桶層，隆起珊瑚礁，砂丘が上層を形成している。暗赤色土壌（マージ）が島の大部分を覆っている。

起伏の少ない平坦な地形のため耕地面積が多く，農業が島の主要な産業である。温暖な亜熱帯性気候を利用して栽培されるサトウキビが島の主要農産物である。また，近年スイカやメロン等の園芸作物も栽培されるようになってきている。伝統産業の大島紬も島のだいじな産業のひとつである。昭和49年奄美群島国定公園に指定された美しい珊瑚礁や，砂丘などは貴重な観光資源となっている。

喜界島も他の大島群島の例にもれず，琉球王朝，薩摩藩の支配下に置かれており，特に薩摩藩の圧政に島民は苦しめられた。これ以前の時代については源氏や平氏にまつわる言い伝えや地名が残っている。大字湾坊主前には僧俊寛の墓と伝えられるものが存在する。志戸桶の「七城」や早町の「平家森」は平家の落人の残したものであると伝えられている。小野津の雁股の泉については為朝にまつわる伝説ものこっている。

明治以降は，湾及び早町を中心に行政区画の合併分離が何回かおこなわれ，終戦後は米軍政下に入り，昭和28年鹿児島県大島郡下に復帰し，昭和31年に喜界町と早町村が合併して現在の喜界町が成立した。

遺跡の所在する島中地区は，島のほぼ中央部やや北側に位置しており，島内の最高所である百之台北側の緩傾斜面に位置する。百之台からの傾斜が緩やかになる山裾に集落が広がり，同様に北側には大朝戸，西目，南側には滝川，城久の集落が存在する。集落付近から傾斜が緩やかになり，県道喜界島循環線の走る中間，池治の集落を経て珊瑚礁の広がる海岸へとつながる。

集落の西側及び北側は標高10m～50mの緩やかな傾斜の畑となり，サトウキビの栽培がなされている。畑の中を島中の南側の滝川集落の湧水を源とする小川が流れている。

島中B遺跡は集落の北西側の畑の中に位置している。この畑は海岸へむかって緩やかに傾斜しており，遺跡の標高はおよそ40m～30mである。

喜界島における本格的な考古学的研究は1935年（昭和10）にさかのぼる。1935年，三宅宗悦は湾尋常高等小学校の新校舎前の一樹の根元付近の残土の中に南島式土器片と貝殻を確認し，湾貝塚として報告している[(1)]。また，手久津久でも島を一周する新道工事中に破壊された遺跡を確認し，南島式土器片や石斧断片，貝殻を採集しており，手久津久貝塚として報告している[(2)]。

1955年（昭和30）から3年間，九学会連合奄美大島共同調査委員会考古学班により南島の調査が行われ，その一環として昭和32年に喜界島の分布調査が実施されている。その報告には荒木農道遺跡，荒木小学校遺跡，湾天神貝塚，伊実久厳島神社貝塚，七城等が紹介されている[(3)]。荒木農道遺跡は農道工事の際，周囲に礫を配し，腕に貝輪をはめた人骨が出土し，採集した上腕骨に巻貝を輪切りにして作った臼玉類似品が数個挿入されていた。ほかに付近から槌石，沈線文を施した土器の小片が出土しており，その時期は宇宿上層式に該当するものと思われる，としている。

荒木小学校遺跡は校内北東隅の採土の際，人骨が出土し，宇宿上層式の土器片が散布しており，小学校西側の道路工事の際にも多くの人骨が出土し，付近には定角式の磨製石斧の出土も見られる，としている。

湾天神貝塚は神社建立の際表土を削平したものと思われ，石斧，土器片，貝器，骨片，獣骨，貝類等が出土する。土器は小片のため形式の判別が困難である，としている。

厳島神社貝塚は土器片，石器断片，獣骨，貝類等を出土する宇宿上層式の遺跡である，としている。

1917年（大正6）地元の竹下軍陸氏により七城から採集された須恵器5個と滑石製石鍋1個についても報告している。

他に小野津，志戸桶，伊実久等の採集遺物についても報告している。

荒木農道遺跡について上原静氏は1982年（昭和57）採集されたホラガイ製利器，螺蓋製貝斧，土器片について考察し，土器片は弥生中期末頃のものと，地元産のものの可能性のあるものとがあるとしている[(4)]。

七城出土の須恵器と報告されている陶器については，このような陶器が南西諸島に分布することに注目し，本格的に報告したのは河口貞徳氏であった[(5)]。この陶器は南西諸島を研究する人々は何らかのかたちで論及しているが，白木原和美氏はこの陶器を「類須恵器」として奄美大島，徳之島，喜界島出土のものを集成している。このなかで喜界島のものは川嶺，志戸桶七城，志戸桶当地，羽里，小野津等出土のものが報告されている[(6)]。

この類須恵器については，1984年（昭和59）に徳之島の伊仙町で地元の四本延宏・義憲和氏により窯跡が発見され，町教育委員会により発掘調査が実施された。その結果，11～13世紀のも

のと考えられ，類須恵器について貴重な資料を提供した[7]。

1986年（昭和61）には白木原和美氏（熊本大学）により，島の中央部北側よりに位置するハンタ遺跡の発掘調査が実施された。調査の結果，宇宿上層式期の住居址群やかまど状遺構等11基の遺構が確認された。遺物は面縄西洞式，喜念Ⅰ式，宇宿上層式等の土器と，石斧，敲石，クガニイシ，石皿，有溝の砥石等の石器が出土している。住居址の構造について論及し，土器の胎土分析も行われている[8]。

また，ハンタ遺跡の調査と平行して町内の遺跡の分布調査も実施されている。その結果，それまで10箇所たらずであった遺跡の数が40箇所近くと急増している[9]。

同年には町教育委員会により島の南東部に位置する先山遺跡の発掘調査も実施され，兼久式土器や螺蓋製貝斧等が出土している[10]。

註 (1) 三宅宗悦　南島の先史時代 『人類学・先史学講座第16巻』 雄山閣　1941

(2) (1)に同じ

(3) 国分直一・河口貞徳・曽野寿彦・野口義磨・原口正三　奄美大島の先史時代 『奄美その自然と文化』 九学会連合奄美大島共同調査委員会　1959

(4) 上原静　奄美・喜界島荒木農道遺跡出土のイトマキボラ製利器・弥生式土器他 『南島考古８号』 沖縄考古学会　1983

(5) 河口貞徳　南島先史時代 『南方産業科学研究所報告第１巻２号』 鹿児島大学南方産業科学研究所　1956

(6) 白木原和美　類須恵器集成（奄美大島・徳之島・喜界島） 『南日本文化６号』 鹿児島短期大学南日本文化研究所　1956

(7) 伊仙町教育委員会 『カムイヤキ古窯跡群Ⅰ・Ⅱ』　1985

(8) 喜界町教育委員会 『ハンタ遺跡』　1987

(9) (8)に同じ

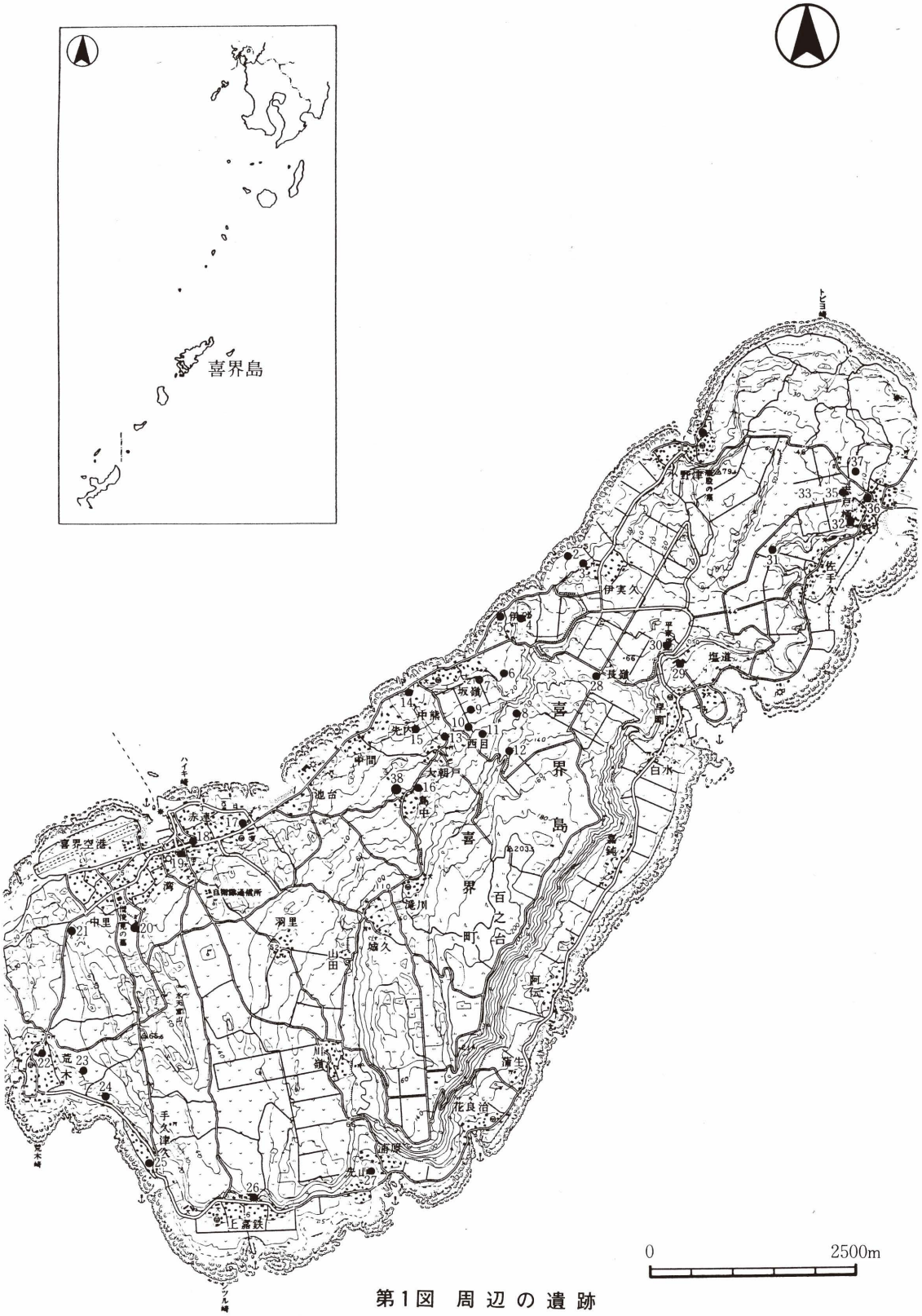
(10) 喜界町教育委員会 『先山遺跡』　1987

他に 『鹿児島県地名大辞典』 角川書店　1983

『鹿児島大百科事典』 南日本新聞社　1981

風土と文化 『鹿児島県風土記』 鹿児島県書店組合　1982

等を参考にした。



第1図　周辺の遺跡

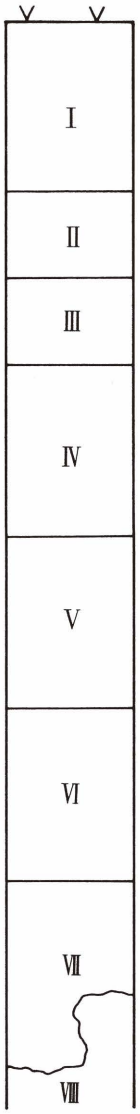
第1表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物等	備考
1	八幡神社境内祠	小野津			
2	下田の滝周辺	伊実久	砂丘上	類須恵器	
3	伊実久貝塚	〃	台地先端	宇宿上層式、青磁、石器、獣骨、貝	
4	大城久	伊砂	段丘上	類須恵器、青磁、フイゴ羽口、鉄滓	
5	伊砂一帯	〃		石器(凹石)、フイゴ羽口	
6	アギ小森田	坂嶺アギ小森田	砂丘上	面縄東洞式、嘉徳Ⅰ式、石器、類須恵器	
7	前田	〃前田	丘陵先端	宇宿上層式、類須恵器、青磁、染付、石器	
8	上砂	〃上砂	段丘上	土器、類須恵器、石器	
9	川堀	中能川堀	段丘上	宇宿上層式、類須恵器、青磁、染付、石器	
10	柏毛	西目柏毛	段丘上	土器、類須恵器、青磁、白磁、石器	
11	上戸間	〃上戸間	段丘上	土器、類須恵器	
12	ハンタ	〃半田	段丘上	喜念Ⅰ式、宇宿上層式、類須恵器、石器、住居址	昭和61年7月調査
13	知無田、能間	大朝戸知無田、能間	段丘上	土器、類須恵器、青磁、染付、石器、羽口	
14	中熊	中熊	台地先端	陶磁器、石器	
15	先内	先内	段丘上	土器、陶磁器、石器	
16	島中	島中	段丘上	類須恵器、青磁、石器、羽口	
17	赤連	赤連	砂丘上	土器(赤連系)	
18	浜川邸	〃		石器	
19	湾天神貝塚	湾	砂丘上	土器、石器	
20	総合グラウンド	〃久大真	砂丘上	嘉徳Ⅰ・Ⅱ式、土製品、貝	
21	中里貝塚	中里	砂丘上	土器、石器、貝	
22	荒木小学校	荒木	砂丘上	石器、人骨	
23	荒木貝塚	〃	丘陵先端	石器、貝	
24	荒木農道	〃	砂丘上	宇宿上層式、貝輪、玉類、人骨	
25	手久津久貝塚	手久津久	砂丘上	石器	
26	上嘉鉄	上嘉鉄大供	砂丘上	喜念Ⅰ式、宇宿上層式、類須恵器、青磁、石器	
27	先山	浦原先山	傾斜地	兼久式、石器、螺蓋製貝斧	昭和61年7月調査
28	長嶺	長嶺	段丘上	類須恵器、滑石製石鍋	
29	早町中学校	早町	砂丘上	石器	
30	平家森	〃上ケ田	台地上	堀割	
31	七城	志戸桶増ケダ	台地先端	類須恵器、土墨状遺構	
32	志戸桶	〃			
33	川峰グスク	志戸桶川峰		滑石製石鍋、南蛮焼、琉球甕、琉球赤絵、古今里	
34	坂元	〃坂元		類須恵器、青磁、染付、滑石製石鍋	
35	当地	〃		類須恵器、滑石製石鍋、玉類	
36	振川	〃振川	砂丘上	土器、貝刃、貝	
37	志戸桶貝塚	〃			
38	島中B	島中	丘陵傾斜地		

第Ⅲ章　層　位

調査区域は標高30m～40mの緩やかな傾斜の畑であり，畑の地力を上げるために天地返しと称して，重機で掘り下げ，土の入れ替えを行っているため，包含層まで削平されている部分も少なくなかった。また，表土の下はⅧ層の珊瑚となっている部分もあった。

層位は各トレンチで若干の相違が見られるが，基本的な層位は第2図に示すとおりである。



Ⅰ層　褐色の表土。色調及び硬さ等によって，2層に区分されるところもある。

Ⅱ層　淡褐色を呈した硬質の粘質土である。乾くとクラックが発達する。青磁，白磁，類須恵器等が出土する。

Ⅲ層　淡黒褐色を呈し，粘質をおびた硬質土である。乾くとクラックが発達する。Ⅱ層と同様に青磁，白磁，類須恵器等が出土する。

Ⅳ層　褐色を呈し，粘質をおびた硬質土である。乾くとクラックが発達する。

Ⅴ層　淡黒褐色を呈し，粘質をおびた硬質土である。乾くとクラックが発達する。

Ⅵ層　淡茶褐色を呈し，粘質をおびた硬質土である。乾くとクラックが発達する。時期不明の土器が出土する。

Ⅶ層　明黄褐色を呈し，粘質をおびた硬質土である。乾くとクラックが発達する。場所によっては色調が赤褐色あるいは茶褐色を呈した樹根あるいは自然の物と考えられる黒褐色あるいは茶褐色の落ち込みがいたる所に見られる。

Ⅷ層　サンゴ

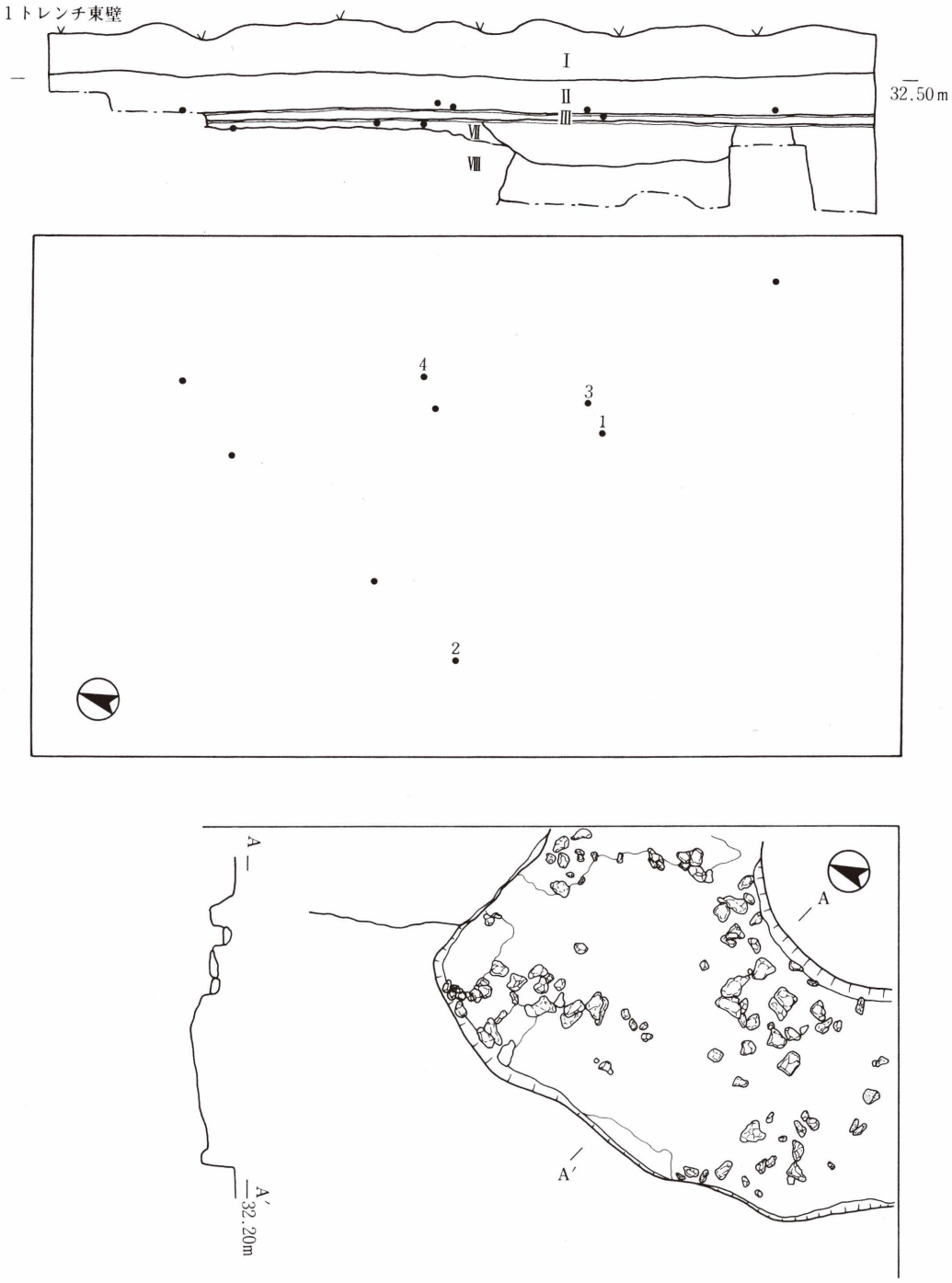
第2図　土層模式柱状図

第３図　遺跡周辺の地形図

第４図　トレンチ配置図

第Ⅳ章　各トレンチの調査

1トレンチは調査区北側端部に近い場所で，標高およそ35mの地点に当初2×4mの大きさ



第5図　1トレンチ

0　1m

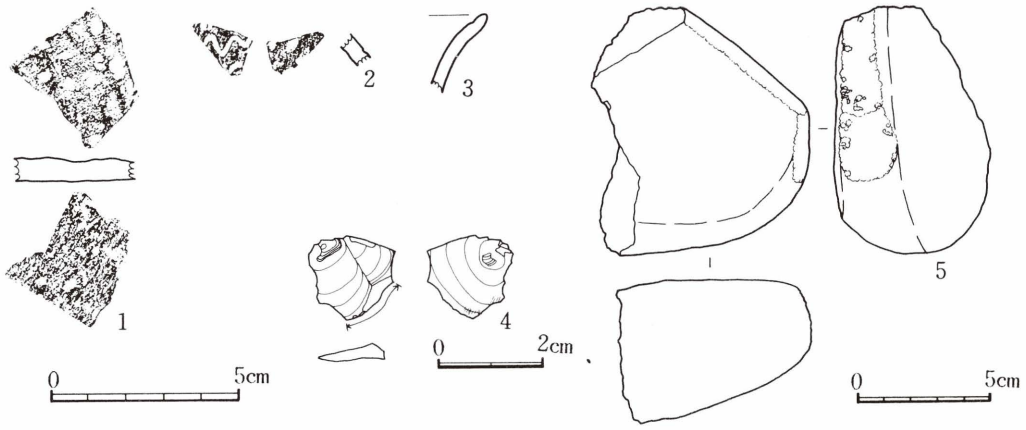
で設定したが，落ち込みらしきものが確認されたので，南側及び東側をそれぞれ１ｍずつ拡張して，３×５ｍの大きさで調査を行った。層位はⅠ層・Ⅱ層・Ⅲ層・Ⅶ層が認められる。Ⅲ層の上下には，黒色の有機質の層がわずかに見られる。Ⅶ層の下はⅧ層のサンゴとなる。Ⅶ層上面で，落ち込みらしき土の変化を確認し，拡張して調査を行った結果，溝状の落ち込みと考えられるもので，確認した部分で最大幅1.98ｍ，最小幅1.22ｍ，深さ約0.3ｍを測る。北側では一部Ⅷ層のサンゴが壁面となっている。埋土は褐色，黒褐色及び明黄褐色の細かいブロックを含む。底面近くには風化したサンゴ及びサンゴ塊が見られる。中から遺物等は出土していない。トレンチ調査のため，全体の形状やその性格・時期等ははっきりしない。

遺物はⅡ，Ⅲ層から出土した。１は類須恵器の底部である。２は甕の肩部の破片で外面にヘラ描の波状文が見られ，内面には叩きらしいものが見られるが小破片のためはっきりしない。３は白磁の碗の口はげ口縁である。４はチャートの剝片で使用痕の見られるものである。５は砂岩を素材とするもので，表裏面共に研磨痕が見られ，側面には敲打痕が見られる。他にチャートの剝片が数点出土している。

２トレンチは１トレンチの南西およそ60ｍの標高33.5ｍの地点に２×４ｍの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ層が認められる。Ⅶ層中に黒褐色の落ち込みが見られるが，これは遺跡外の畑の断面等でもいたるところで同様のものが観察されており，樹根等の自然のものではないかと考えられる。遺物はⅡ・Ⅲ層から出土する。６は類須恵器の破片であるが小破片のため器種等は明らかでない。外面は斜位の平行叩き，内面には格子目叩きが見られる。

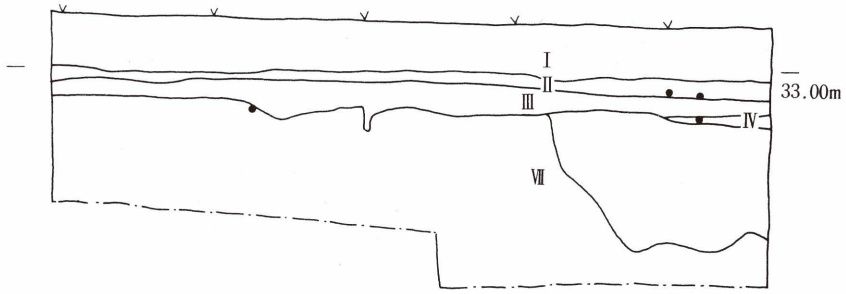
３トレンチは２トレンチのほぼ西側およそ80ｍの標高約32ｍの地点に２×４ｍの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層が認められた。Ⅶ層には１トレンチと同様，樹根あるいは自然のものと考えられる落ち込みが確認された。

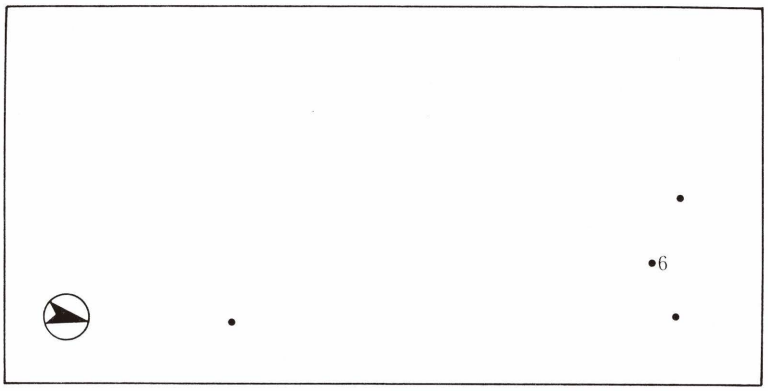
遺物はⅡ層から出土した。７は須恵器の甕の破片と考えられるもので，内外面ともに斜位の平行叩きが見られる。８～16は類須恵器の破片である。８～14は甕の破片と考えられるもので



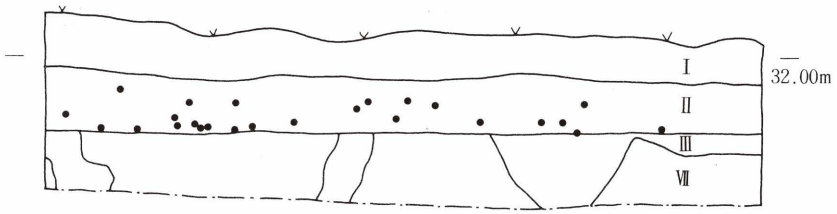
第６図　１トレンチ出土遺物

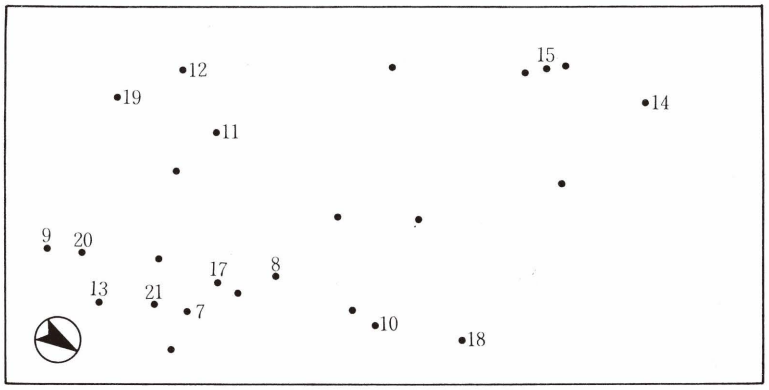
2トレンチ西壁





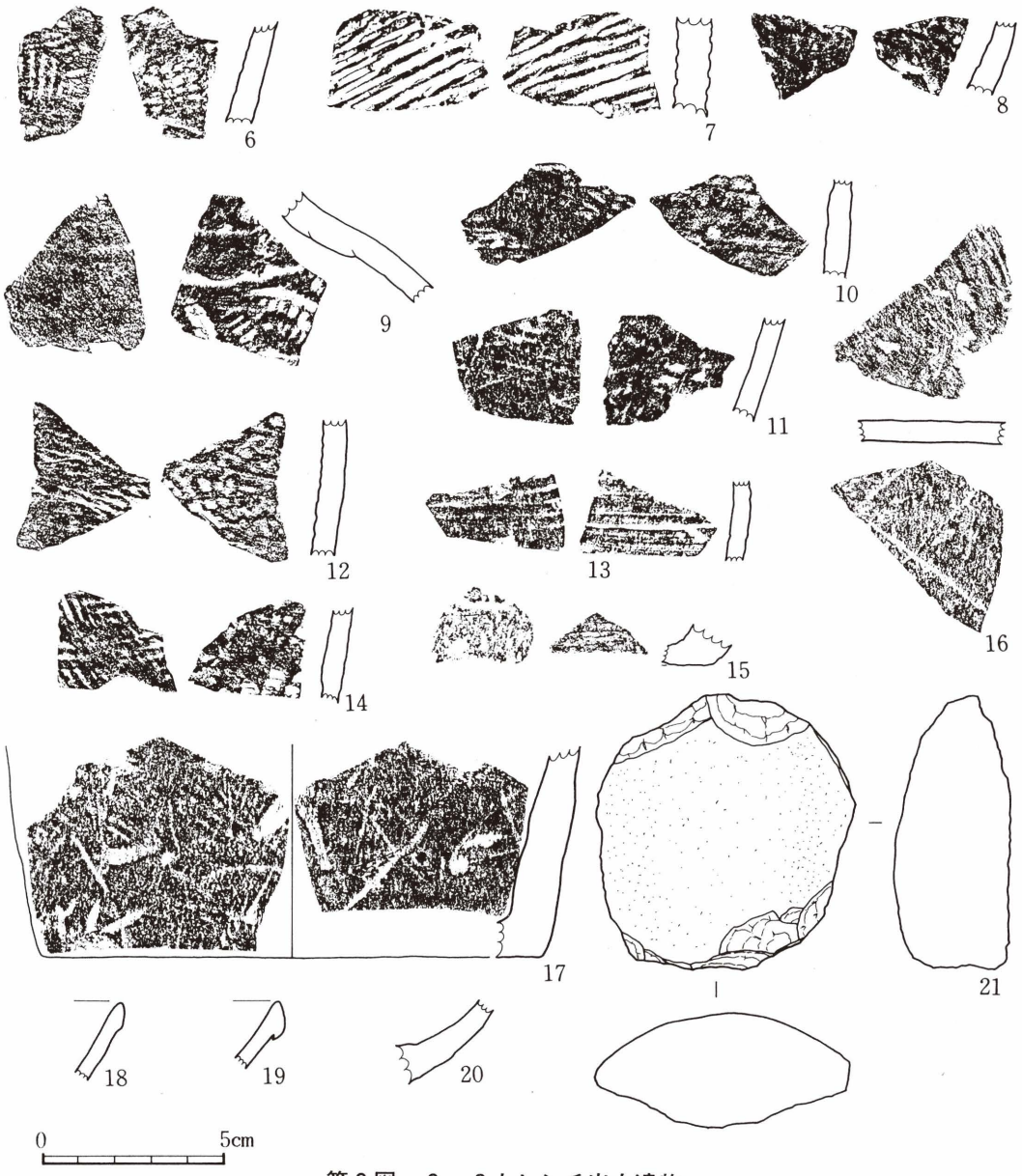
3トレンチ西壁





第7図　2, 3トレンチ

ある。9は甕の肩部から頸部にかけての破片である。内面には端部が弧状になる格子目叩きが見られる。10〜14は胴部の破片である。いずれも外面には平行叩きがみられる。12，14は内面に格子目叩きが見られる。15，16は底部の破片であるが，小破片のため器種は明らかでない。17は類須恵器と考えられるものであるが，色調等から須恵器の可能性もあるものである。壺の底部と考えられる破片で外面には斜位の平行叩きがみられる。18，19，20は白磁の破片である。18，19は玉縁をもつ口縁部である。磁胎は灰白色で，19の釉は黄色味をおびて薄い。20は底部近くの破片である。21は角閃石安山岩を素材とする敲石と考えられるものである。他にチャー



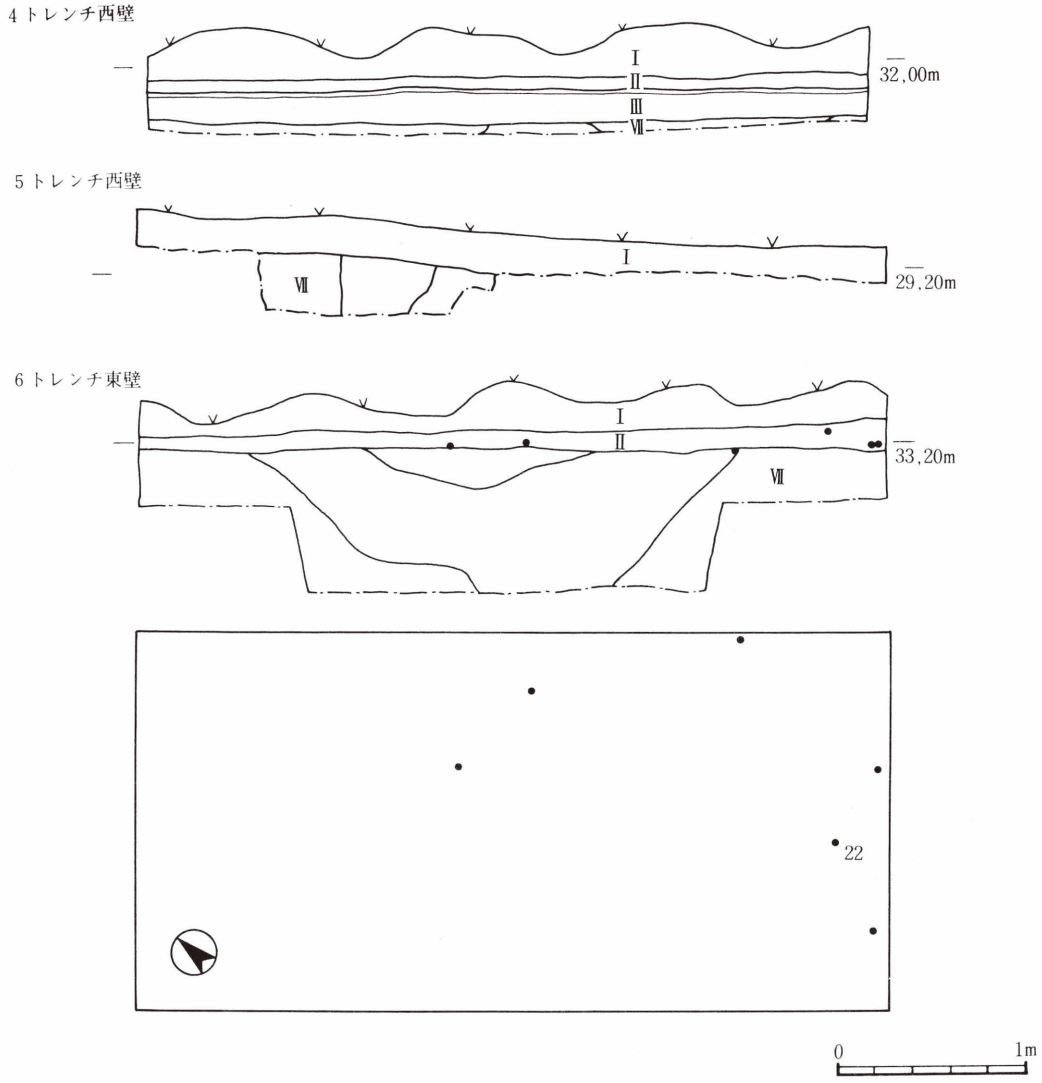
第8図　2，3トレンチ出土遺物

トの剝片が数点出土している。

4トレンチは2トレンチの北西およそ40mの標高約32mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ層が確認された。Ⅲ層の上部には黒色の薄い有機質層が見られる。遺構・遺物等は確認されなかった。

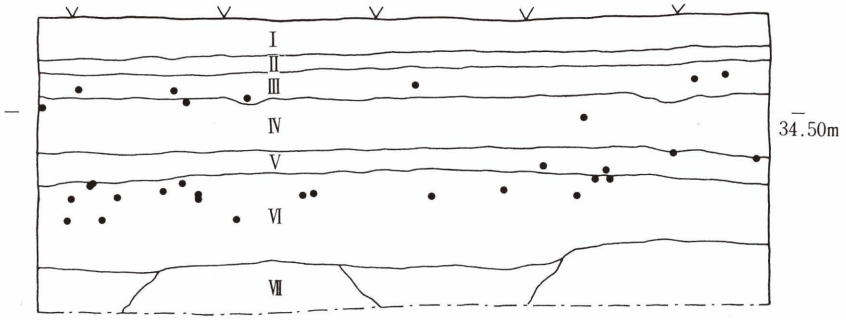
5トレンチは3トレンチの西およそ60mの標高約20.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。Ⅰ層の下はⅦ層あるいはⅧ層のサンゴとなる。遺構・遺物等は確認されなかった。

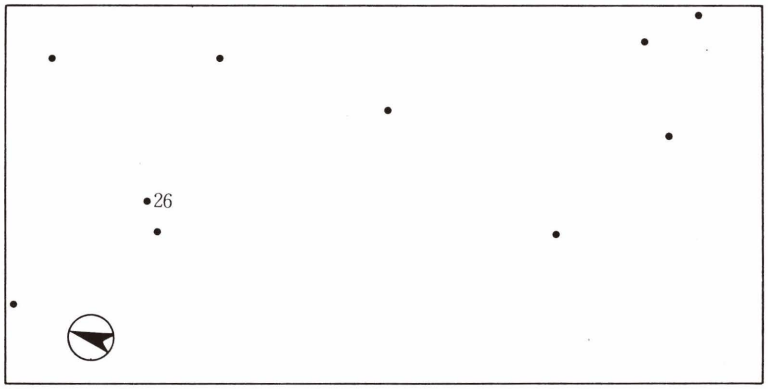
6トレンチは3トレンチの南およそ50mの標高約33.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅶ層が認められた。Ⅶ層中に黒褐色，茶褐色の落ち込みらしきものがみら

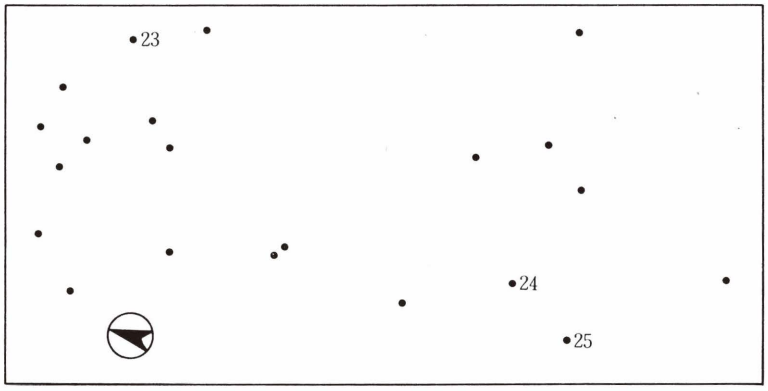


第9図　4,5,6トレンチ

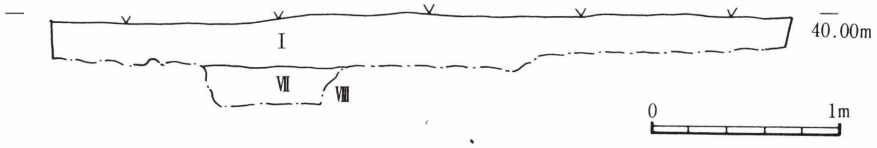
7トレンチ東壁







8トレンチ南壁



第10図　7，8トレンチ

れたが，掘り下げた結果，今までのトレンチのⅦ層中に見られた樹根らしきものと同様のものであった。

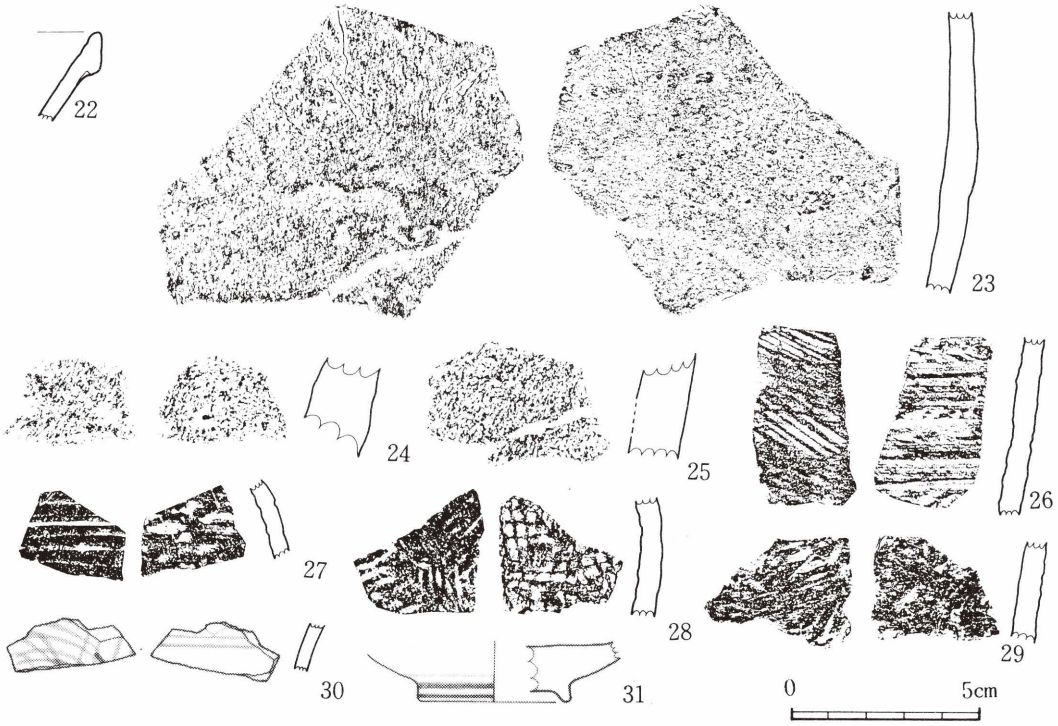
遺物はⅡ層から出土した。22は玉縁をもつ白磁の口縁部である。内面は部分的に無釉の部分がみられる。

7トレンチは1トレンチの南およそ60mの標高約35mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ～Ⅶ層が認められた。

遺物はⅢ層・Ⅵ層中から主に出土した。23～25はⅥ層の遺物で，26はⅢ層の遺物である。23は胴部の破片であるが器形は明らかでない。砂粒の混入の少ない比較的精製された胎土を用いており，焼成はややもろい。色調は明茶褐色を呈している。内外面にわずかにススの付着がみられる。24，25は比較的厚手の土器で，胎土に石英，長石，角閃石を含み焼成はややもろい。色調は茶褐色を呈している。26は類須恵器の甕と考えられるもので胴部の破片である。内面は格子目と考えられる叩きの後，ナデ整形を施している。外面には斜位の平行叩きを施す。Ⅲ層中には他に白磁の胴部と考えられる小破片等が出土している。Ⅵ層にはこのような遺物の出土はなく，23～25のような土器片のみである。

8トレンチは2トレンチの南およそ200mの標高40mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ層の下に部分的にⅦ層がみられ，場所によってはすぐⅧ層になる。

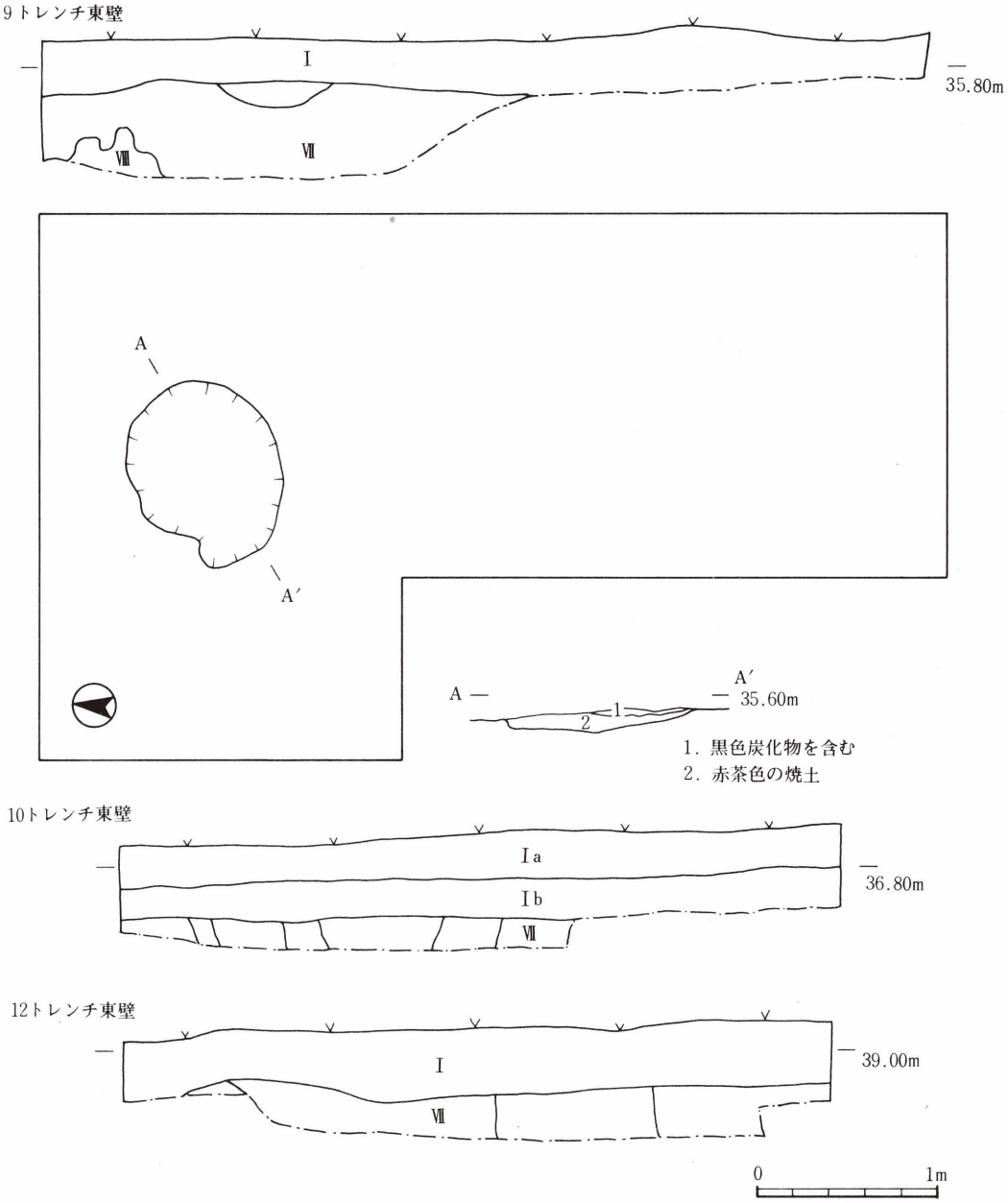
遺物包含層はすでに削平されたものと考えられ，遺物はすべてⅠ層からの出土である。27～



第11図　6,7,8トレンチ出土遺物

29は類須恵器の破片で甕の胴部と考えられるものである。27は外面に沈線がみられる。内面は格子目叩き後ナデ整形を行っている。28，29はいずれも外面は平行叩きで，内面には格子目叩きがみられる。30，31は染付の破片である。31は草花文を描く。31は高台に圏線を描く。

9トレンチは2トレンチの南西およそ50mの標高およそ36mの地点に当初2×4mの大きさで設定した。表層を剝いだ時点で落ち込みらしきものが確認されたので，トレンチの北側を1m，西側の北部を1m拡張し調査を行った。層位はⅠ層の下はⅦ層またはⅧ層のサンゴとなる。



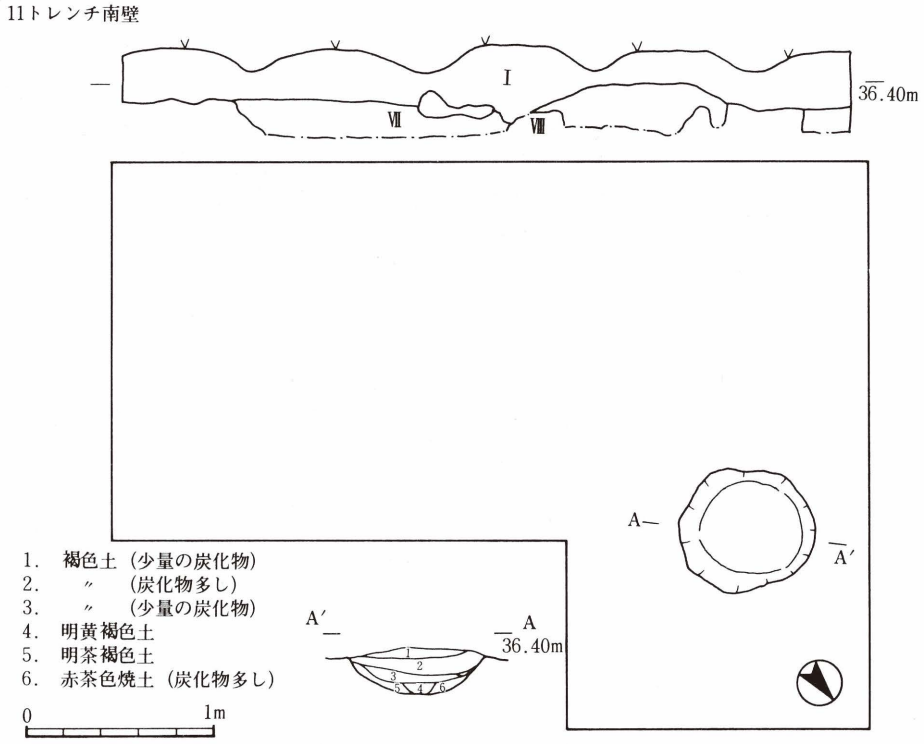
第12図　9，10，12トレンチ

Ⅰ層を剝いだ段階のⅦ層上面で，落ち込みを確認した。長径1.02m，短径0.82mの楕円形に近い形状で，確認した面からの深さは中央部で0.11mを測る。埋土は上部に炭化物を含み，下は赤く焼けた土である。中から遺物が出土していないので時期は明らかでない。Ⅰ層からではあるが32，33の遺物が出土しているのでこの時期も考えられる。しかし，調査の段階では炭化物が非常に生々しく，それほど古い時期の遺構ではないのではないかとも考えられた。

32，33の遺物がⅠ層から出土した。いずれも類須恵器の破片であり，32は甕の口縁部で復元口径12.6cmを測る。口縁部が大きく外反し，端部はやや肥厚し，外面に断面三角形の突帯を貼り付けている。33は甕の胴部と考えられるもので，内面は格子目叩きが見られ，外面には平行叩きが見られる。

10トレンチは9トレンチの西およそ70mの標高約37mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅶ層が認められた。Ⅰ層はa,bの2層に分けられ，Ⅶ層は樹根あるいは自然によるものと考えられる層の変化が見られた。

遺物はすべてⅠ層からの出土である。34～37は類須恵器の甕の破片と考えられるものである。34は内外面ともナデ整形，35は内面はナデ整形で外面は平行叩きの後ナデ整形を行っている。36，37はいずれも内面は格子目叩き後ナデ整形を行い，外面は平行叩きを施す。38は玉縁をも



第13図　11トレンチ

つ白磁の口縁である。39は白磁の碗の口縁部である。40は染付の口縁部で外面に波文を施すものである。

11トレンチは10トレンチの南西およそ80mの標高36.5mの地点に当初2×4mの大きさで設定したが，トレンチ北東隅に落ち込みを確認したので1×1.60m拡張して調査を継続した。層位はⅠ層の下はⅦ層になりⅧ層のサンゴへと続く。

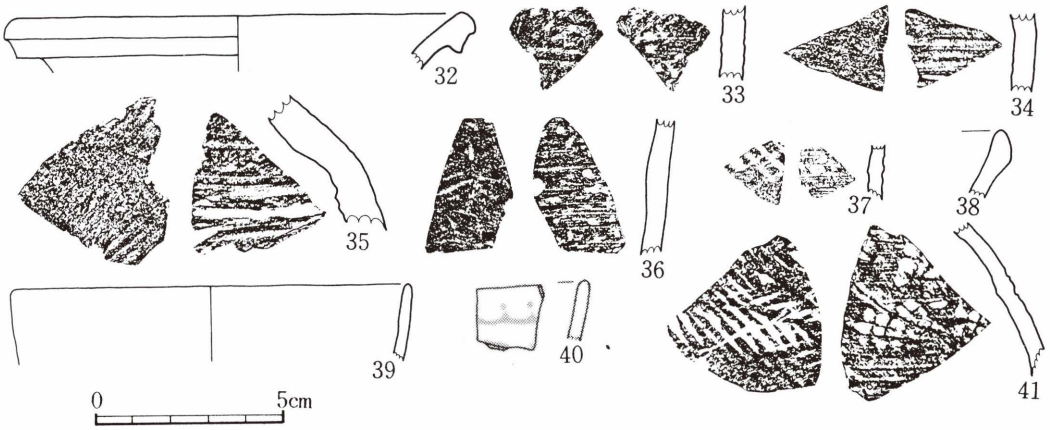
Ⅰ層を剝いだ段階のⅦ層最上面で，円形に近い落ち込みを確認した。大きさは最長径0.71m，最短径0.64mで，深さは0.24mを測る。埋土には焼け土や木炭片を含んでいる。遺物等が出土していないので時期等は明らかでないが，9トレンチの落ち込みと同様，比較的新しい時期のものである可能性もある。遺物は出土しなかった。

12トレンチは10トレンチの南およそ50mの標高約39mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅶ層が認められた。場所によってはⅠ層の下はⅧ層のサンゴとなる。遺構は確認されなかった。41はⅠ層から出土した類須恵器の甕の胴部破片である。外面は平行叩きを施し，内面は格子目叩き後ナデ整形を行っている。他に染付の小破片が数点出土した。

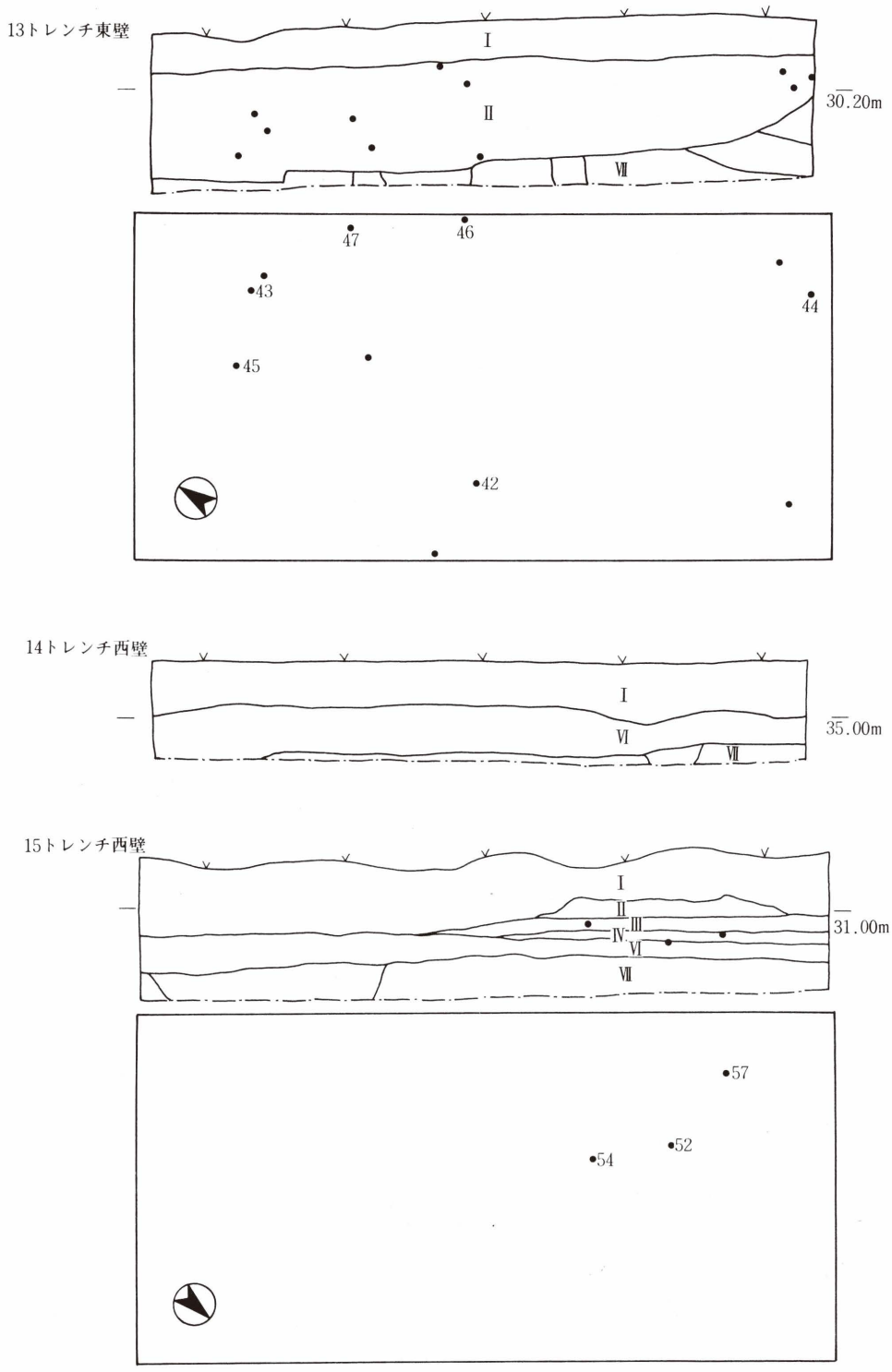
13トレンチは6トレンチの西およそ50mの標高約30.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅶ層が認められた。Ⅶ層には樹根等ではないかと考えられる層の変化が見られた。

遺構等は確認されなかった。遺物はⅡ層から出土した。42～46は類須恵器の破片である。42は甕の破片と考えられる。42は内面は格子目叩きの後ナデ整形を行い，外面は平行叩きの後ナデ整形を行っている。43は内面に格子目叩きが見られる。44は内面は放射状に広がり先端部が弧状になると考えられる叩きが見られる。外面は格子目叩きが施される。45は内面はわずかに格子目叩きが見られる。外面は平行叩きを施す。46は底部である。47は白磁と考えられるが釉が非常に薄く表面がザラザラしている。ほかにチャートの剝片が出土している。

14トレンチは6トレンチの南およそ80mの標高約35.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅵ・Ⅶ層が認められた。遺構等は確認されたかった。



第14図　9,10,12トレンチ出土遺物



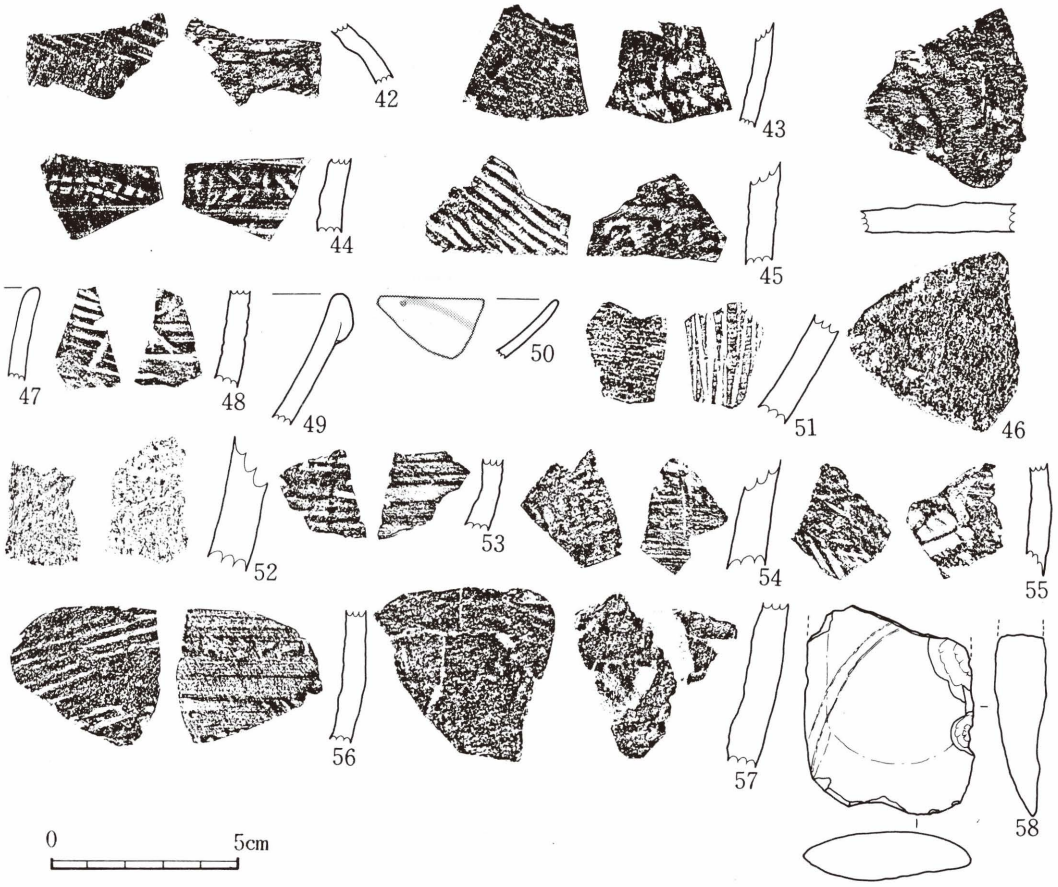
第15図　13，14，15トレンチ

0　1m

遺物はすべてⅠ層から出土したものである。48は類須恵器の破片である。外面に平行叩きがみられる。49は白磁の口縁部で玉縁を持つものである。50は染付の碗の口縁部である。51は摺鉢の破片である。

15トレンチは3トレンチの北西およそ20m標高約31.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ層が確認された。台地の縁辺部に近いためわずかに傾斜している。また耕作のためⅢ層までは削平されている部分がある。

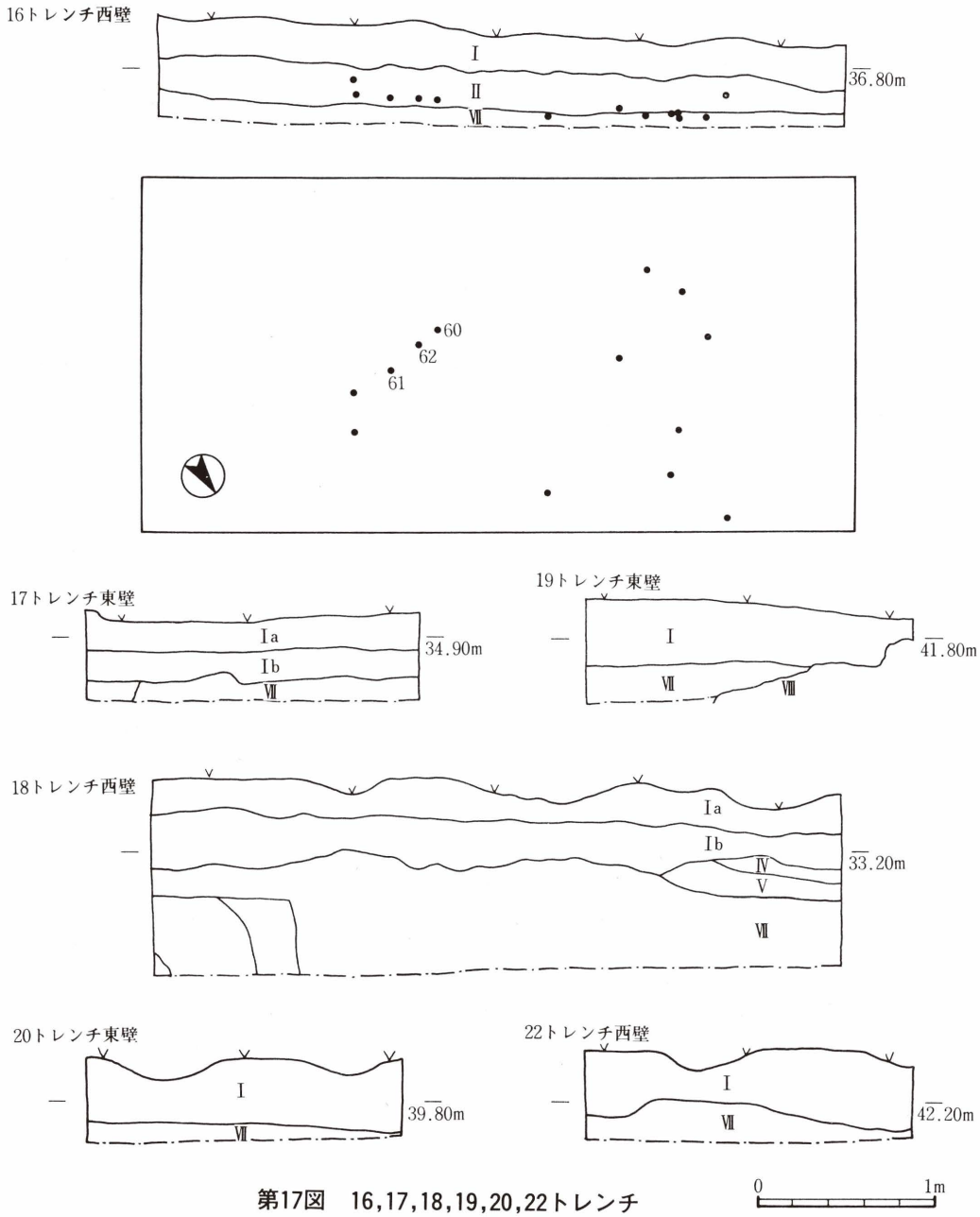
遺構は確認されなかった。遺物はⅠ層からの出土が多かったが，Ⅲ層から2点，Ⅵ層から1点出土している。52は暗赤褐色を呈した土器片である。胎土に石英，長石を含み焼成はややもろい。Ⅵ層から出土したものである。53～57は類須恵器の破片である。いずれも甕の胴部と考えられる。53～56は内面は端部が弧状になると考えられる格子目叩き後ナデ整形を行っており，55は格子目叩きが顕著である。外面はいずれも平行叩きが見られる。57は外面にわずかに平行叩きが見られるのみである。58は凝灰岩を素材とする石斧片である。磨製の石斧であるが研磨痕ははっきりしない。Ⅰ層から出土しているため，傷が多くついている。



第16図　13，14，15トレンチ出土遺物

16トレンチは11トレンチの南東およそ40mの標高37mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅱ・Ⅶ層が認められた。

遺物はⅠ・Ⅱ層から出土した。59～61は類須恵器の破片である。59は内面は端部が弧状になる格子目叩きが見られ，外面は平行叩き後ナデ整形が見られる。60の内面はナデ整形である。61は内面が格子目叩き後ナデ整形，外面が平行叩き後ナデ整形である。62は青磁の碗の底部である。高台の内面まで釉がかかり，貫入が見られる。63，64は染付の碗の口縁部である。63は



第17図　16,17,18,19,20,22トレンチ

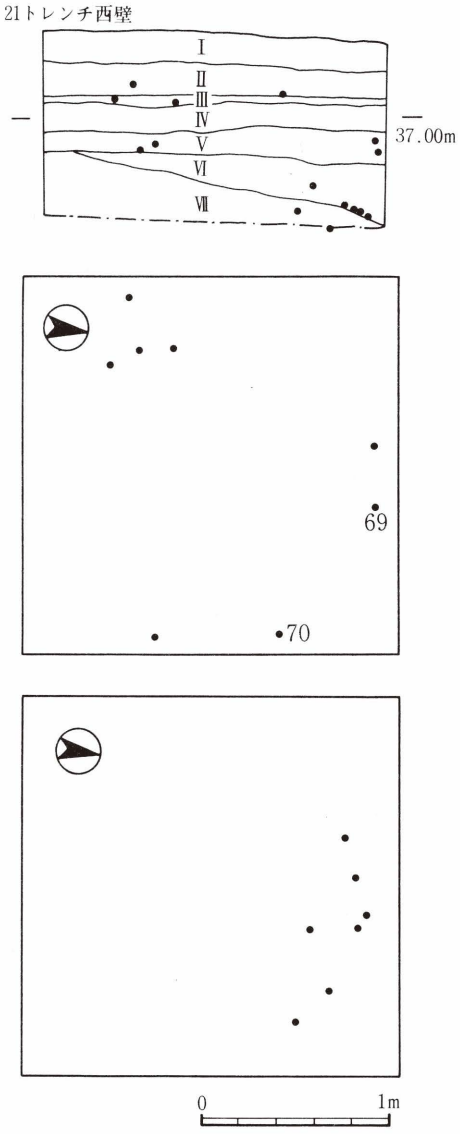
外面に網目文を描き，64は外面口縁部に二条の圏線を描く。65は砂岩を素材とする磨石の欠損品である。60，61，62，65はⅡ層の出土で，他はⅠ層の出土である。

17トレンチは3トレンチの南東およそ30mの標高約35mの地点に2×2mの大きさで設定した。層位はⅠ層がa，bに分けられ，その下はⅦ層になる。

遺物は66がⅠ層から出土した。砂岩を素材とした磨石である。

18トレンチは13トレンチの南東およそ60mの標高約33.5mの地点に2×4mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ層が認められた。Ⅰ層はa，bに分けられ，傾斜地のためⅣ・Ⅴ層が南側では削平されている。Ⅶ層中には層の乱れがみられる。

67はⅠ層から出土した類須恵器の破片で，内面が淡赤褐色を呈するものである。



第18図　21トレンチ

19トレンチは8トレンチの東およそ60mの標高約42mの地点に2×2mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅶ・Ⅷ層が認められ，場所によってはⅠ層の下はすぐⅧ層のサンゴとなる。遺構，遺物等は確認されなかった。

20トレンチは19トレンチの南西およそ40mの標高約40mの地点に2×2mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅶ層が認められた。遺構，遺物等は確認されなかった。

21トレンチは12トレンチの東およそ40mの標高約37.5mの地点に2×2mの大きさで設定した。層位はⅠ～Ⅶ層まで認められた。Ⅴ層までは水平に堆積しているが，Ⅶ層が傾斜しているためⅥ層下部はこの傾斜にそっており，トレンチの南側では堆積が見られない。

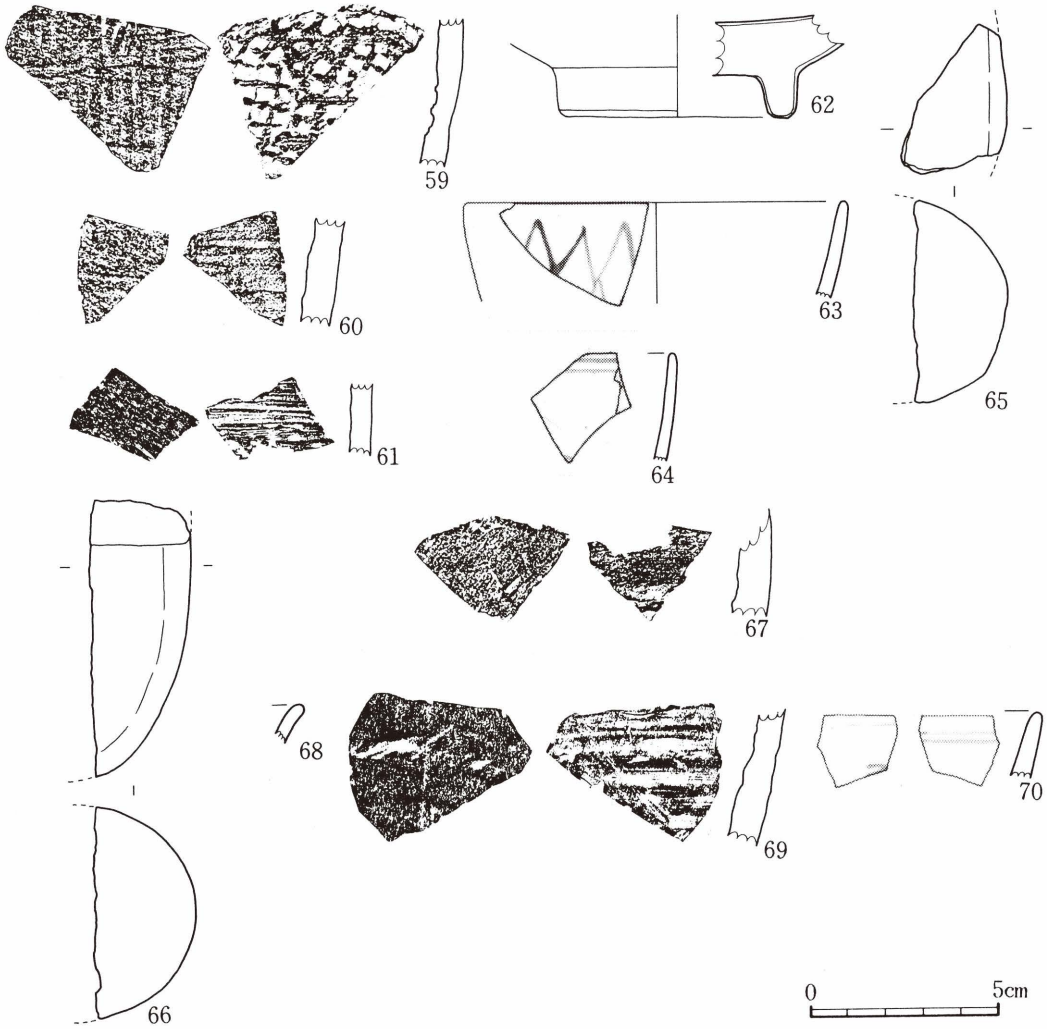
遺物はⅠ層及びⅡ・Ⅴ・Ⅵ層から出土した。68は土師質の土器の椀と考えられるものの口縁部である。69は類須恵器の破片である。内面はナデ整形が見られる。外面はナデ整形を施しているが，わずかに叩きが見られる。70は染付の碗の口縁部と考えられるものである。口縁部の内面に二条，外面に一条の圏線が描かれ，外面は他にも文様が描かれているがはっきりしない。68はⅠ層，69はⅤ層，70はⅡ層からの出土である。全体的な遺物の出土についてみるとⅡ層からは白磁や染付等の破片，Ⅴ層からは類須恵器や無文土器片が出土し，

Ⅵ層からは無文の土器片が出土している。

22トレンチは21トレンチの南東およそ90mの標高約42.5mの地点に2×2mの大きさで設定した。層位はⅠ・Ⅶ層が認められた。

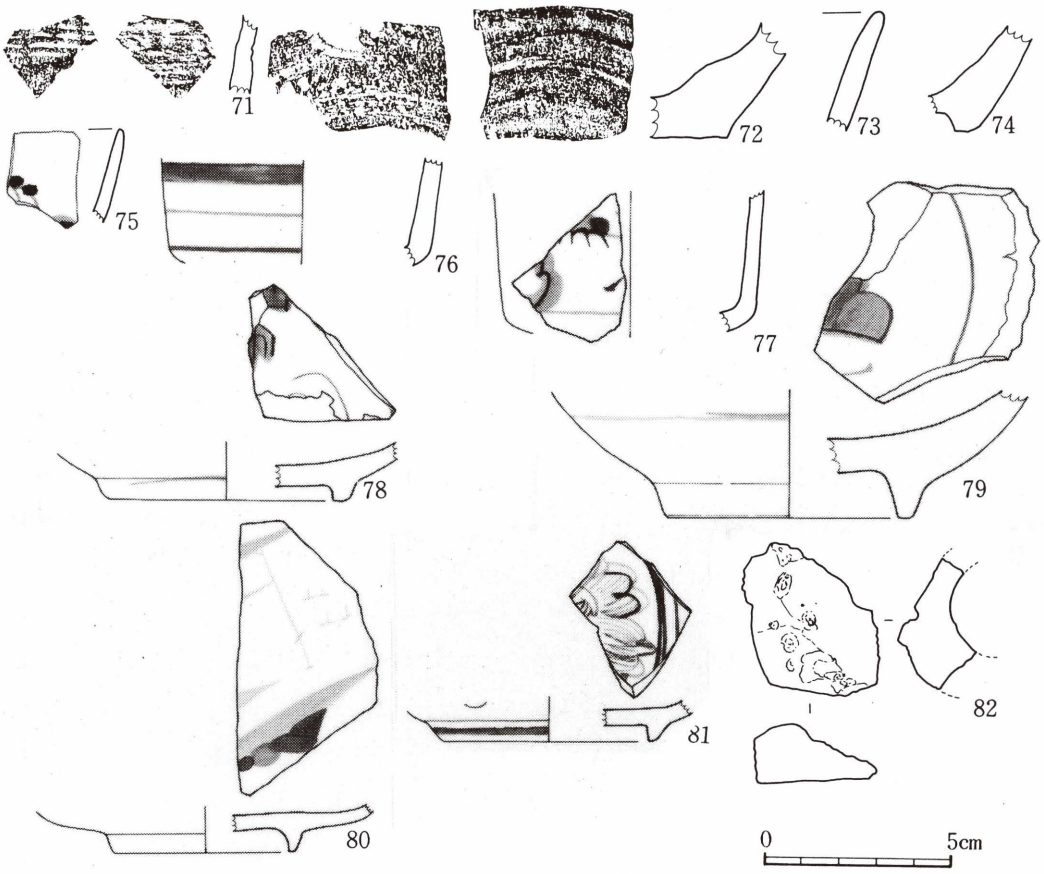
遺構，遺物等は確認されなかった。

第20図71～82は遺跡内で調査中に採集した遺物である。71，72は類須恵器の破片である。71は甕の胴部と考えられるもので，内面はナデ，外面は平行叩きが見られる。72は甕の底部と考えられるものである。73は青磁の碗の口縁部の破片である。磁胎は灰褐色で，釉は淡緑色を呈している。貫入が見られる。74は白磁の壺と思われるものの底部である。胴部からほぼまっすぐ高台へと続き，畳付は施釉せず，高台内面から底部は釉がかかる。内面は施釉しない。75～81は染付の破片である。75～77は碗である。76，77は筒形を呈しており，76は圏線を描き，77は雪持笹を描く。78は皿の底部と考えられるものである。79はひび割染付の碗の底部である。



第19図　16,17,18,21トレンチ出土遺物

胴部に一条の圏線を描き，見込には一条の圏線と草花文と思われる文様を描く。80，81は皿の底部の破片である。80は見込に海辺文を描く。81は高台に二条の圏線を描き，見込には花文を描く。82はフイゴの羽口と考えられるものである。



第20図　表 採 遺 物

第Ⅴ章　まとめにかえて

島中Ｂ遺跡の調査は調査区域内に合計22箇所のトレンチを設定して調査を実施した。土層は火山灰がなく，包含層が薄いという南島独特の堆積状況であり，調査区域が畑であるため，地力回復のため天地返しを行っており，包含層まで攪乱されている部分も少なくなかった。

１，２，３，６，７，13，15，16，21トレンチから遺物が出土しているが，７，21トレンチからは間に無遺物層をはさんで，上下から時期の違う遺物が出土している。

遺構は１トレンチから溝状遺構と考えられるものが，９，11トレンチから焼土あるいは木炭片等を埋土の中に混入する土壙が検出されたが，いずれもその時期や性格等については明らかにできなかった。

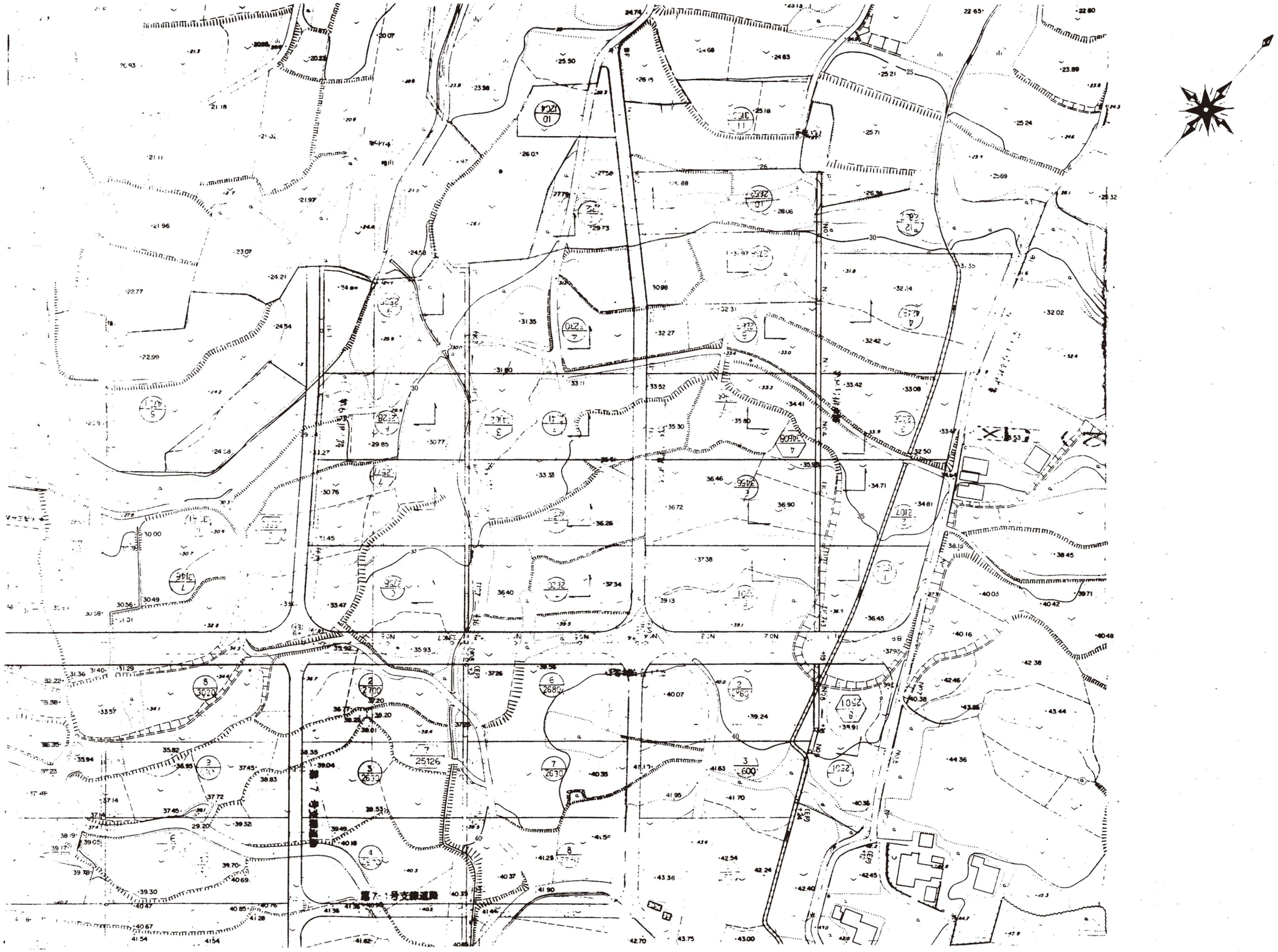
遺物は青磁や白磁等のほか，南島にのみ出土する須恵器に類似した陶質の土器がその主体を占めた。この須恵器に類似した陶質の土器は，その名称についていくつかの呼び方があるが今回は類須恵器として統一した。今回出土したものは破片が細かく，その全体を把握できるようなものはなかったが，その特徴を見てみると，器形はそのほとんどが甕と考えられるものである。肩部に波状の文様をもつものが１点出土している。内面の整形は，端部が格子目となる叩きを施すもの，この叩きの後ナデ整形を行うものなどがある。外面は格子目叩きを施すもの，斜位の平行叩きを施すもの，このような叩きの後，ナデ整形を行っているもの等がある。このような特徴をもつ類須恵器は南島では以前から知られていたが，1984年徳之島の伊仙町でカムイヤき古窯跡群の発掘調査が行われ，その生産が南島で行われていたことが明らかになった。またこのカムイヤキ古窯跡群の熱残留磁気測定結果は12世紀～13世紀の年代が得られ，C^{14}年代測定値は11世紀～13世紀の年代が得られている[(1)]。このような類須恵器を出土する南島の各遺跡では，玉縁口縁を持つ白磁等の共伴関係が知られており，今回の調査でも同様の遺物が出土している。このことは層位的な調査の困難であった遺跡の時期決定のてがかりになると考えられる。また、細片のため明らかでないが，土師器の口縁部と考えられる遺物が出土しているが、これがもし土師器とするならば，南島では現在のところ土師器の出土は確認されておらず，あきらかに須恵器と考えられるものの出土とともに，他の地域との交流を示すものである。

７トレンチ，21トレンチではⅥ層から無文の土器が出土している。この遺物は２種類あり，23は器壁が薄く，比較的精製された胎土を用い，色調は淡茶褐色を呈しており，一見，弥生土器に類似している。24，25は知名町中甫洞穴出土の轟式に類似しているが，条痕が見られない。喜界町には赤連から轟式系の土器が出土しており，胎土等はこれにも類似している[(2)]。

また他に，チャート片が出土しており，これは島内に産地がないことから，他の地域との交流をうかがわせるものである。

註　(1)　伊仙町教育委員会，伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)　カムィヤキ古窯跡群Ⅰ・Ⅱ　1985

(2)　河口貞徳氏御教示による。



第21図 施 工 計 画 図

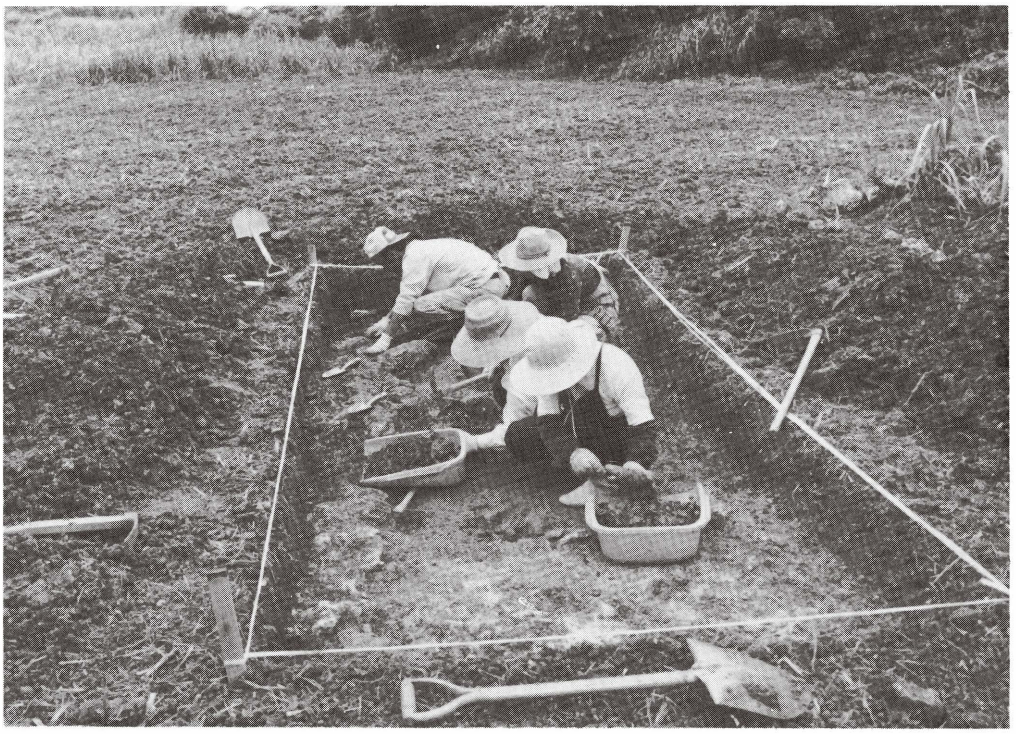
図　　版

遺跡遠景（南から遺跡を望む）

遺 跡 近 景

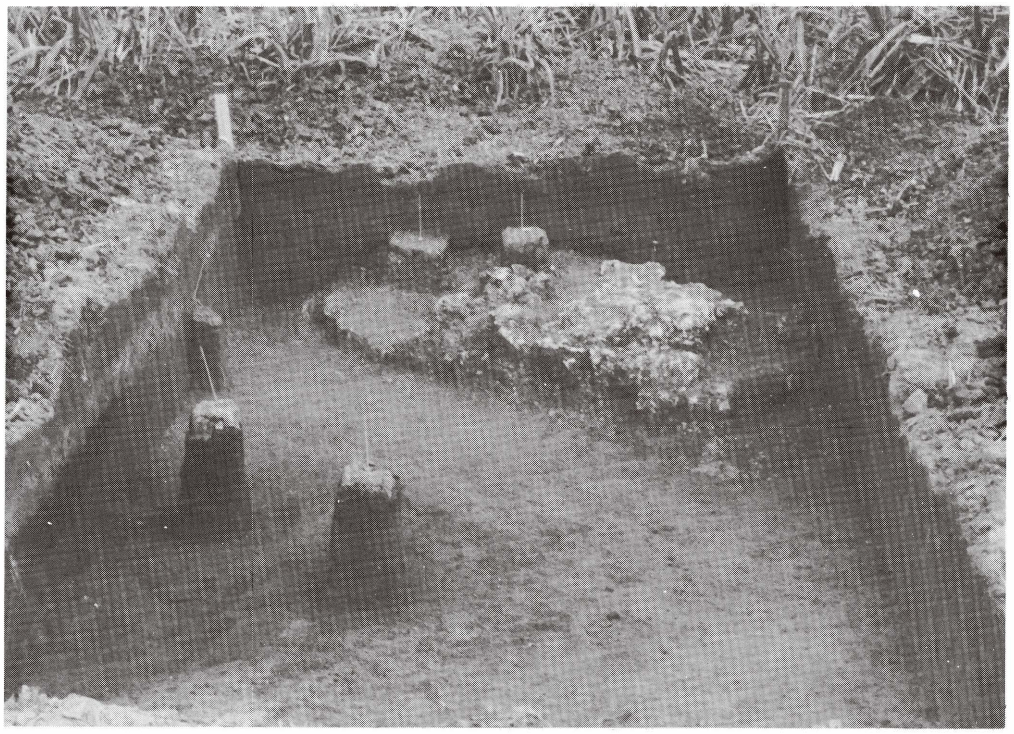
図版2

調査風景（7トレンチ）



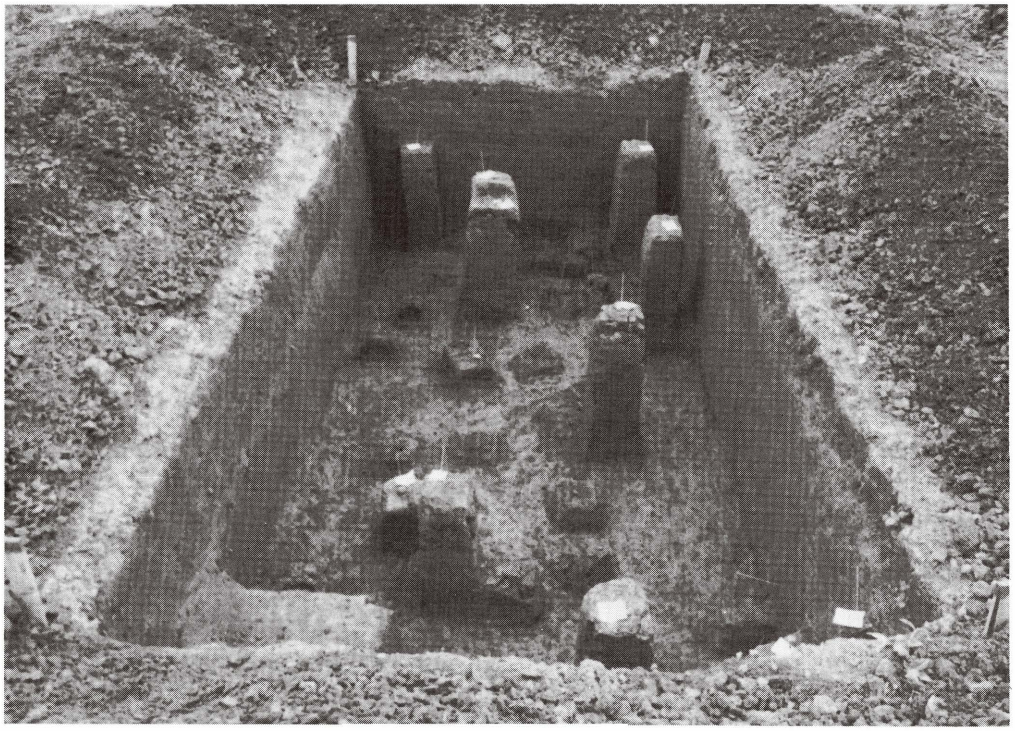
調査風景（8トレンチ）

1トレンチ溝状遺構検出状況

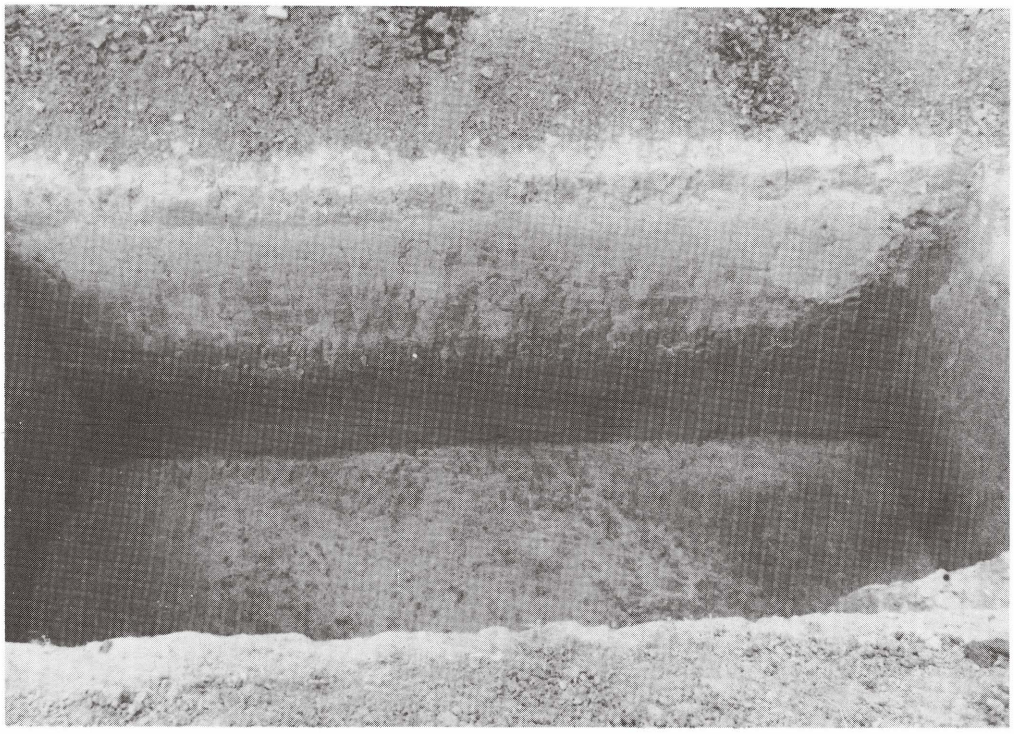


6トレンチ遺物出土状況

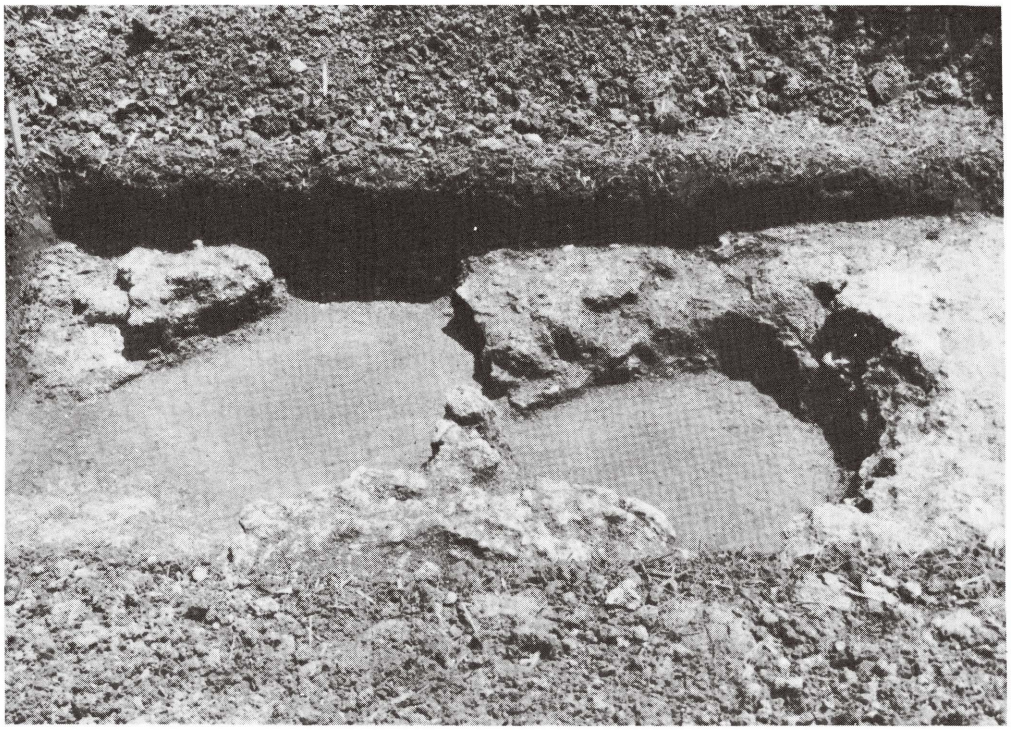
図版4



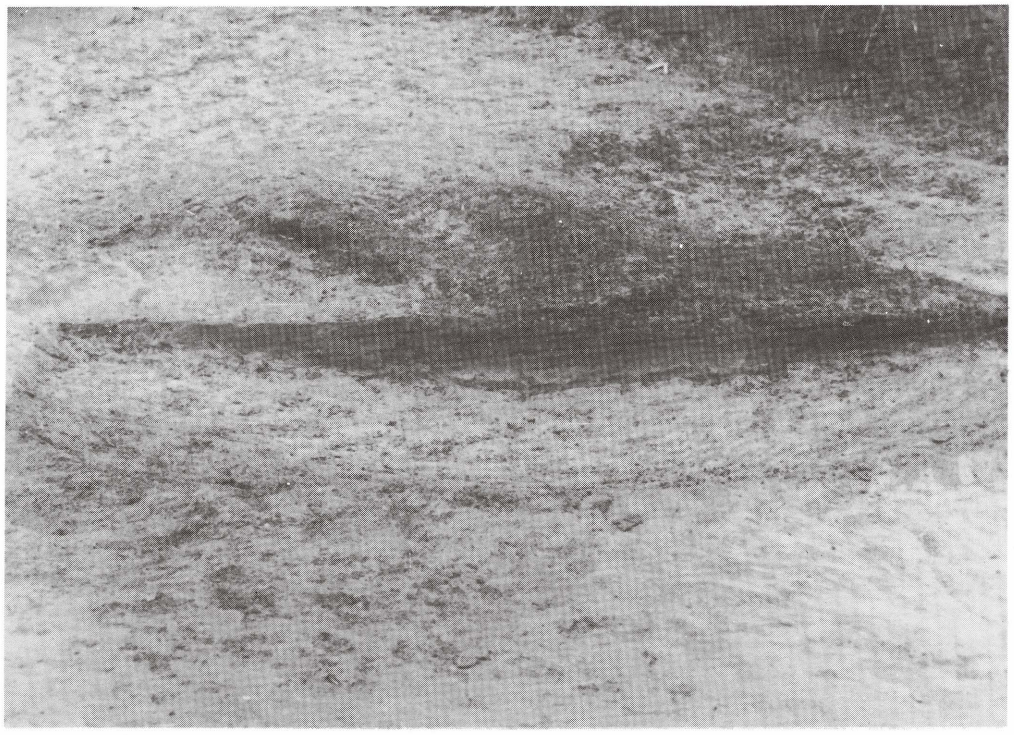
7トレンチ遺物出土状況



7トレンチ土層断面

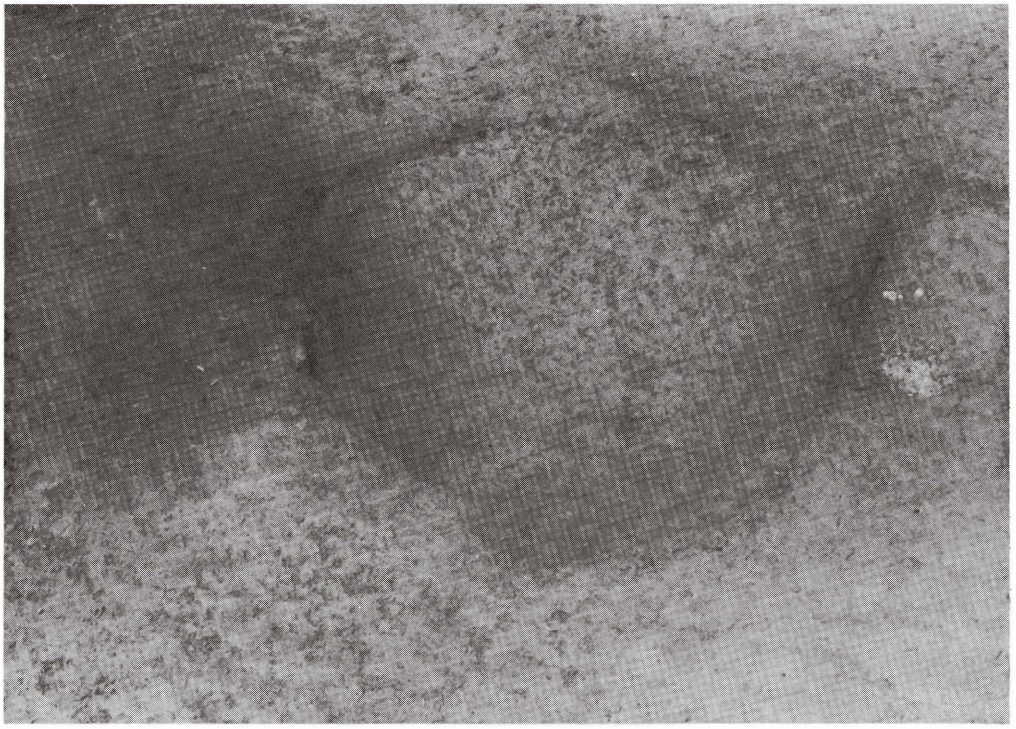


8 トレンチ



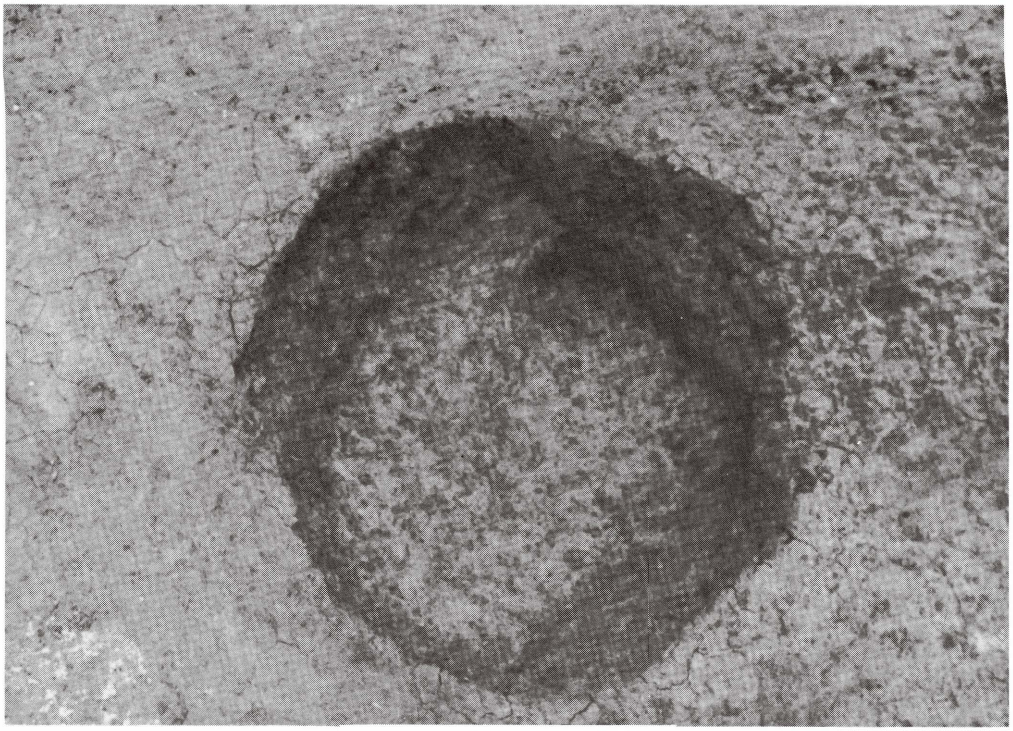
9 トレンチ落ち込み断面

図版6

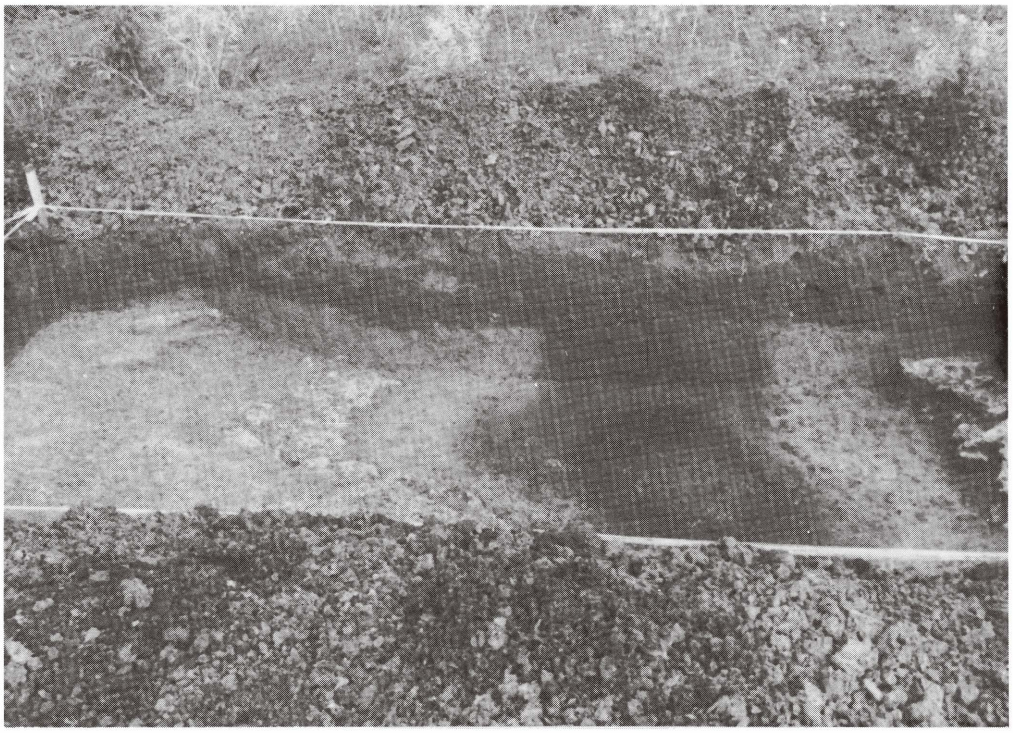


9 トレンチ落ち込み完掘状況

11トレンチ落ち込み断面



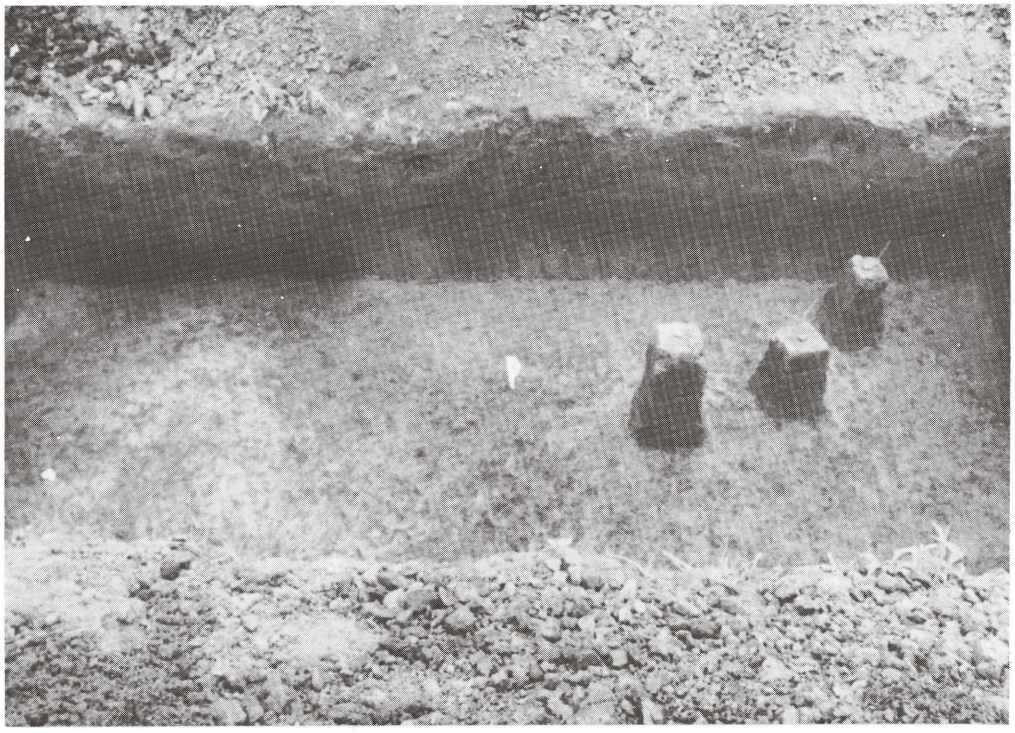
11トレンチ落ち込み完掘状況



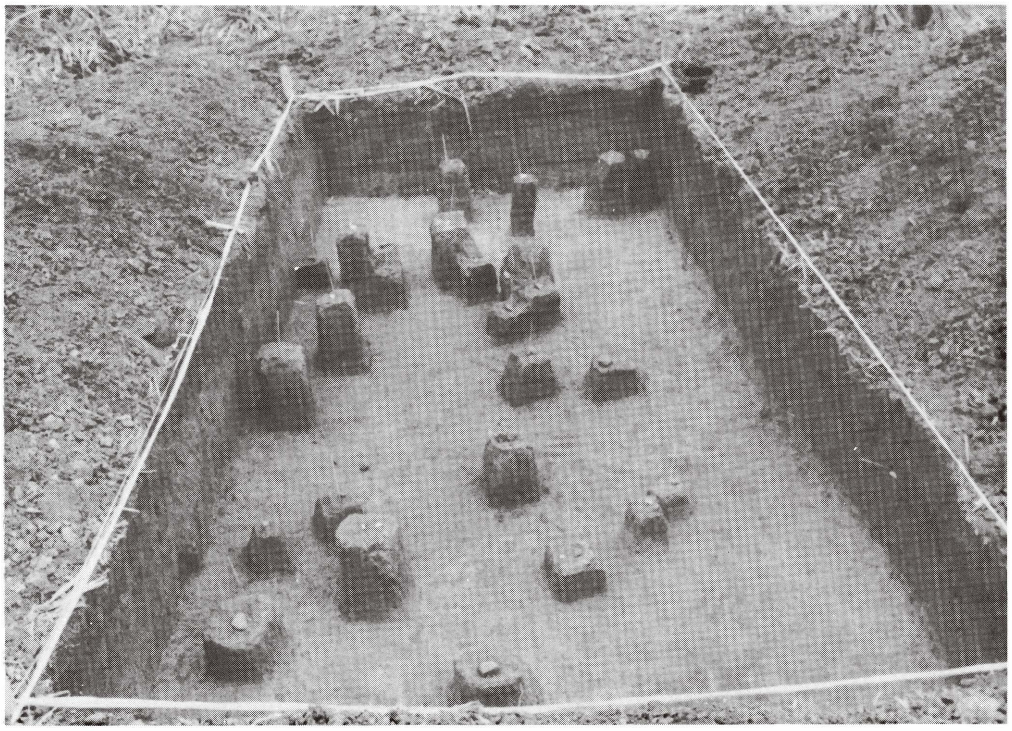
12トレンチ土層断面

図版8

13トレンチ遺物出土状況



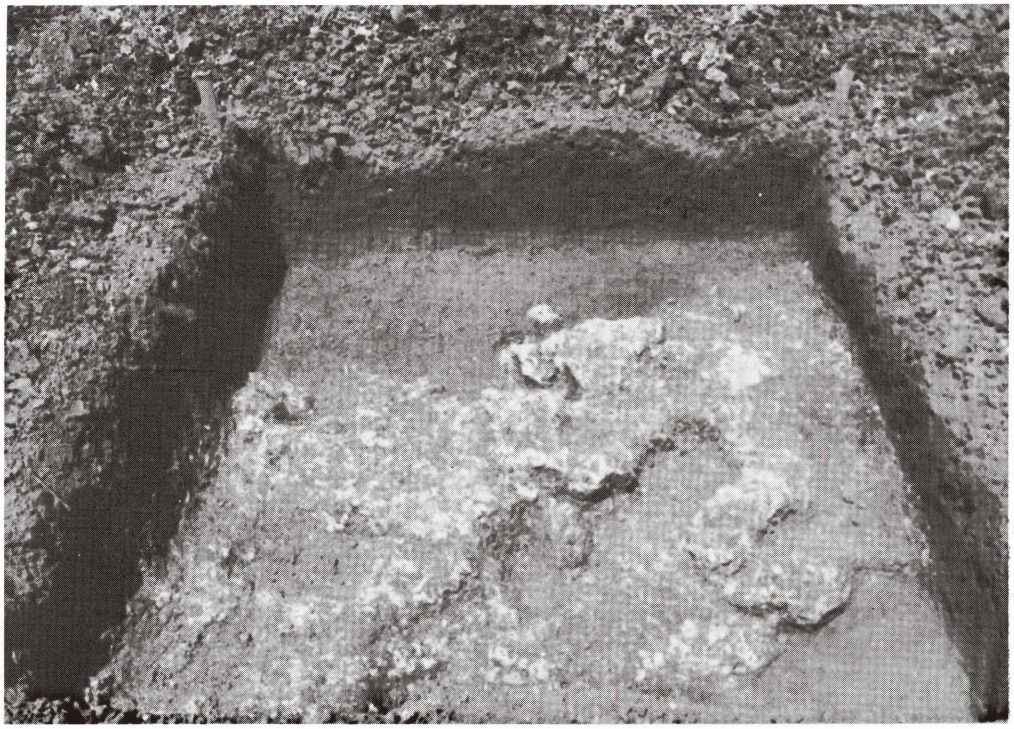
15トレンチ遺物出土状況



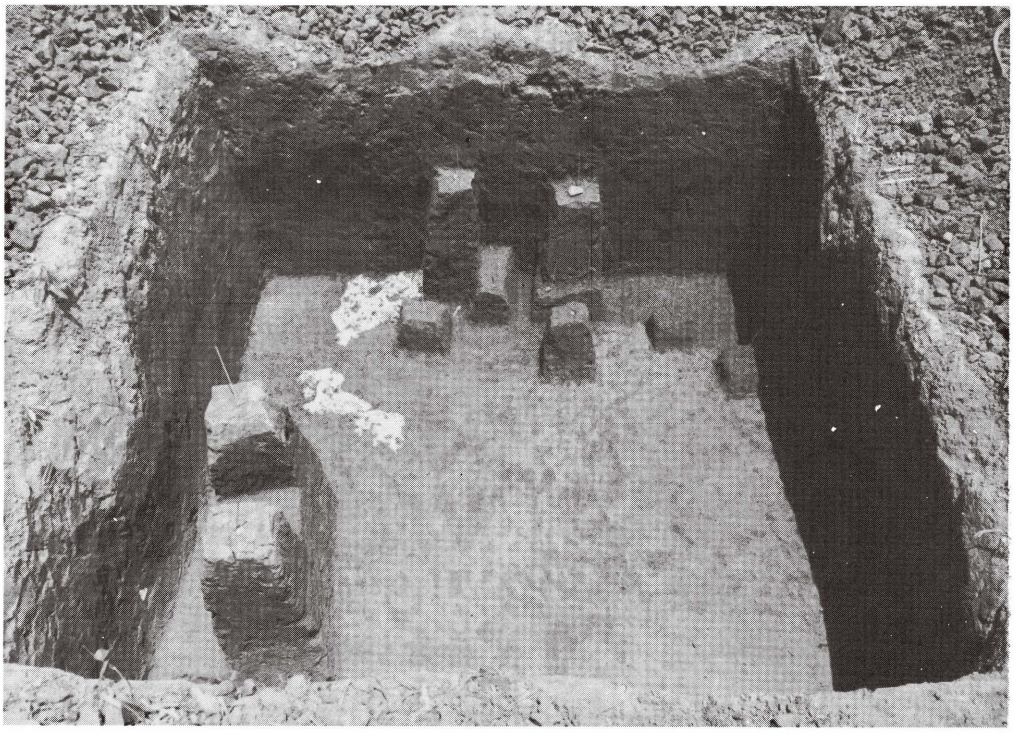
16トレンチ遺物出土状況

19トレンチ土層断面

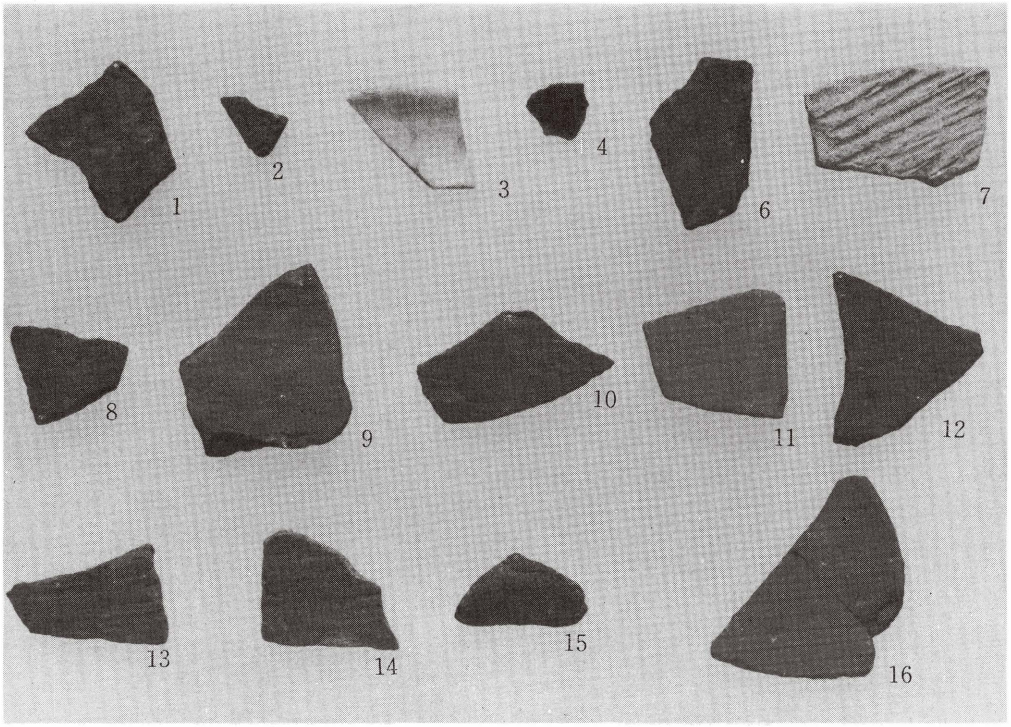
図版10



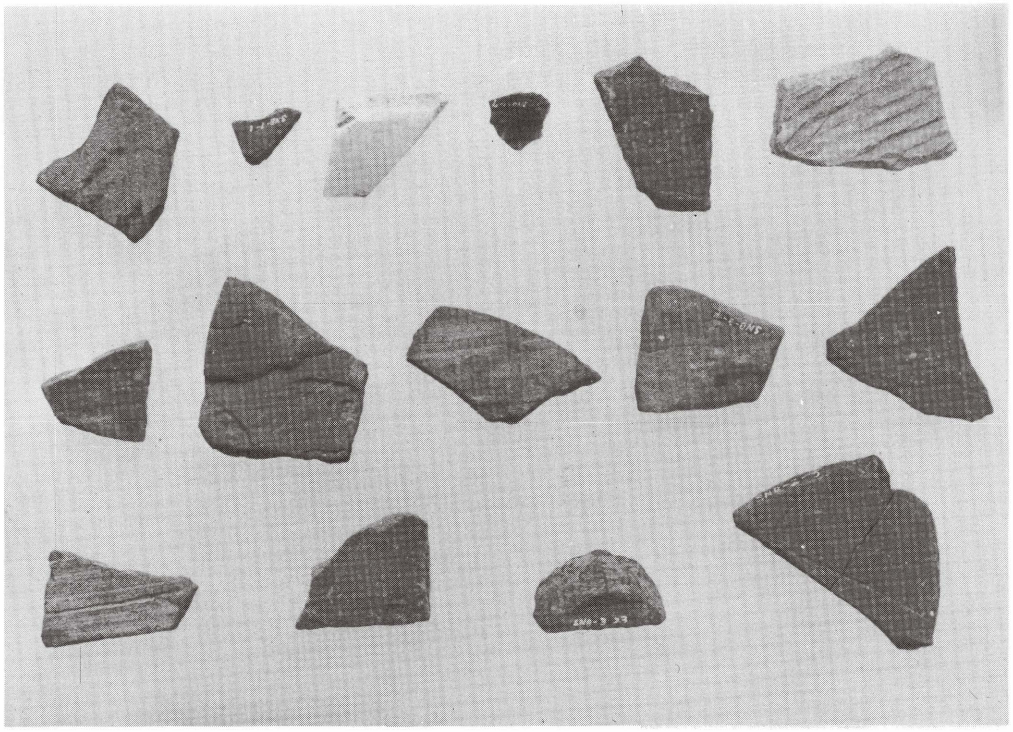
20トレンチ土層断面



21トレンチ遺物出土状況

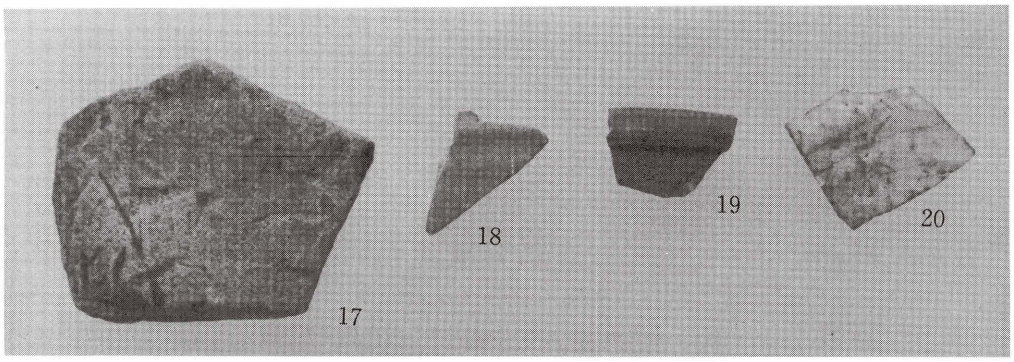


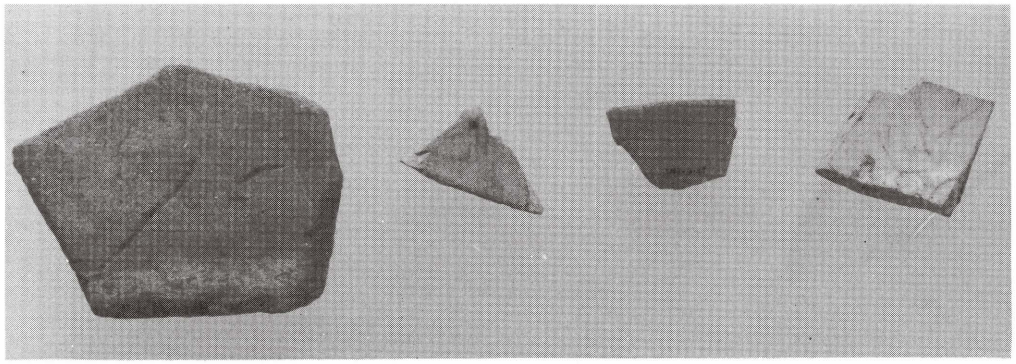
出土遺物（表）



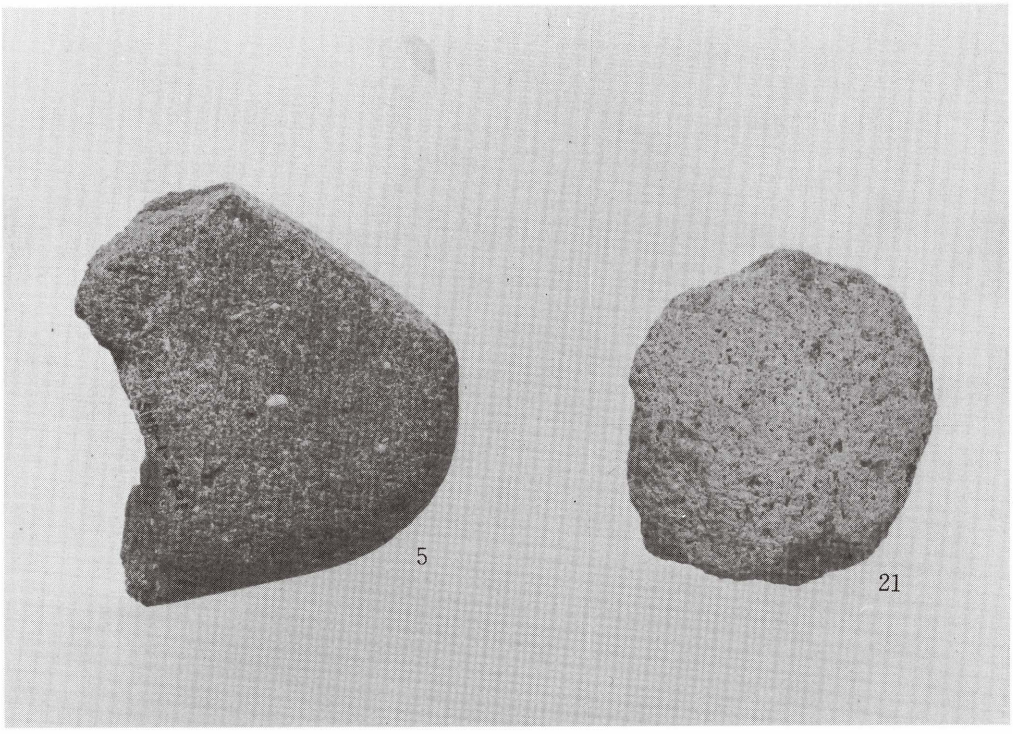
出土遺物（裏）

図版12

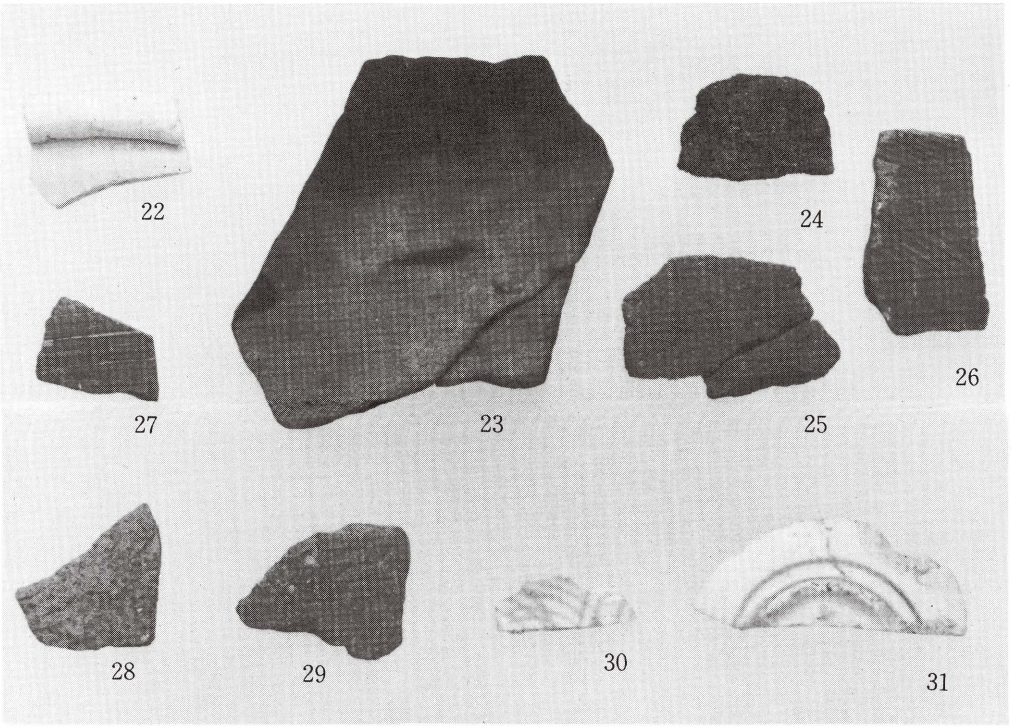




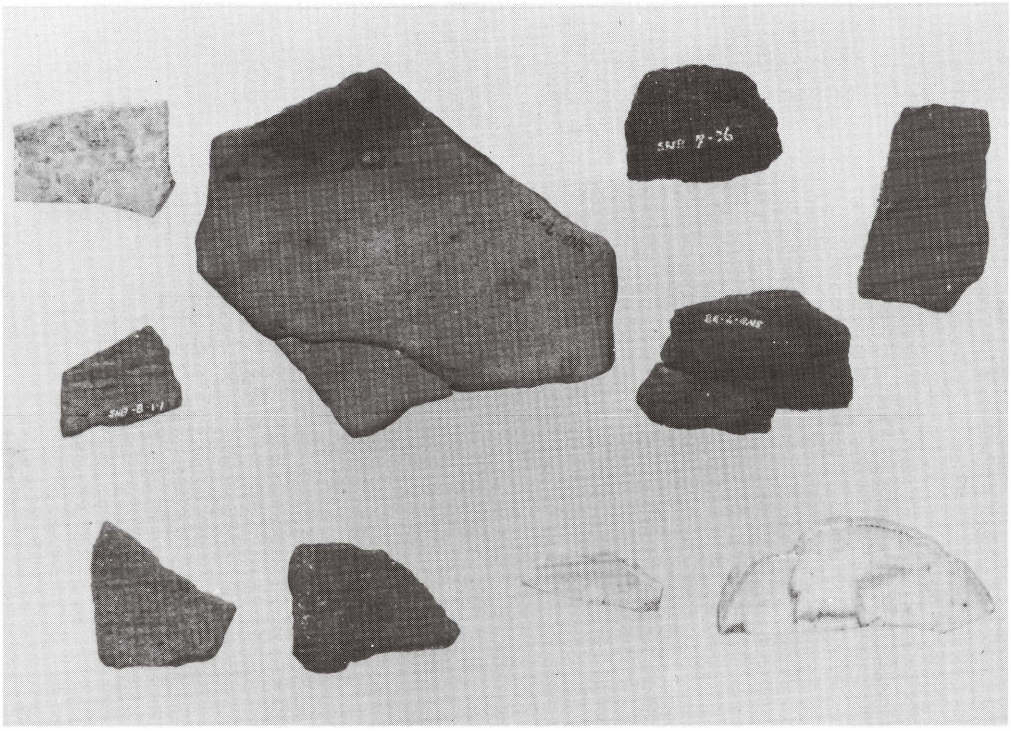
出　土　遺　物



出　土　石　器

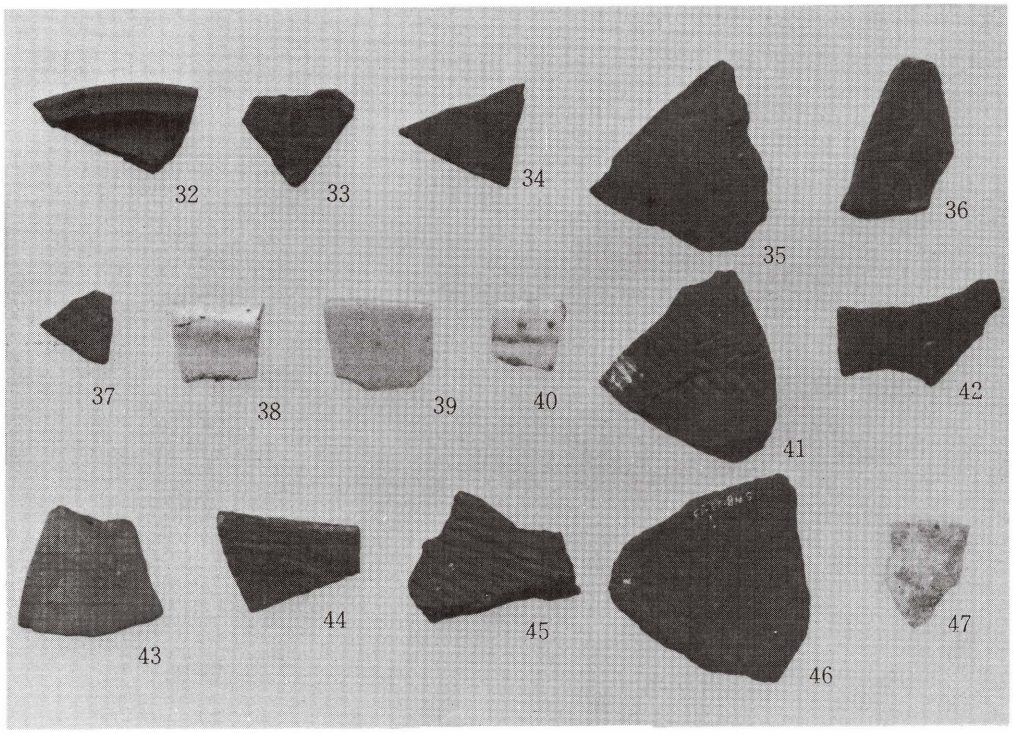


出土遺物（表）

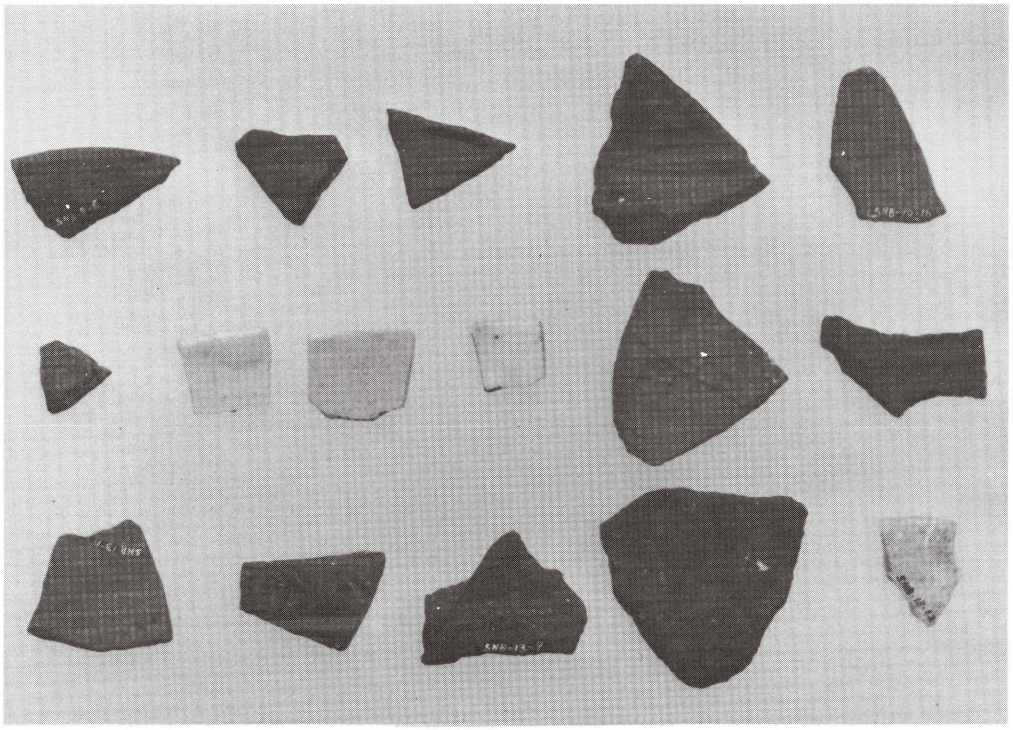


出土遺物（裏）

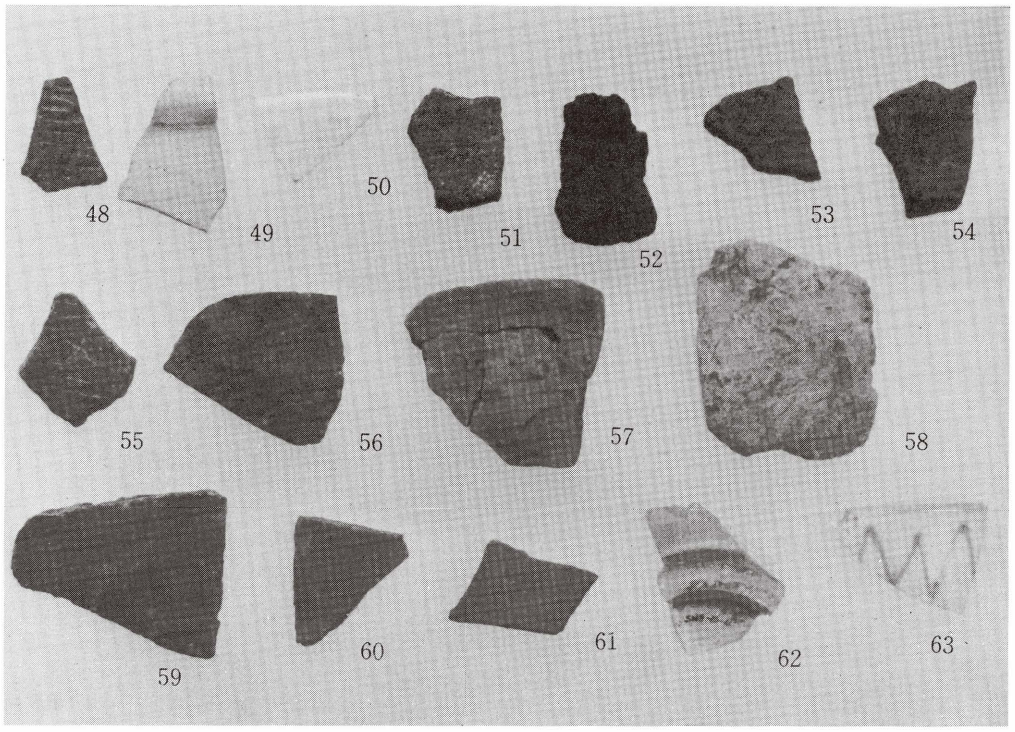
図版14



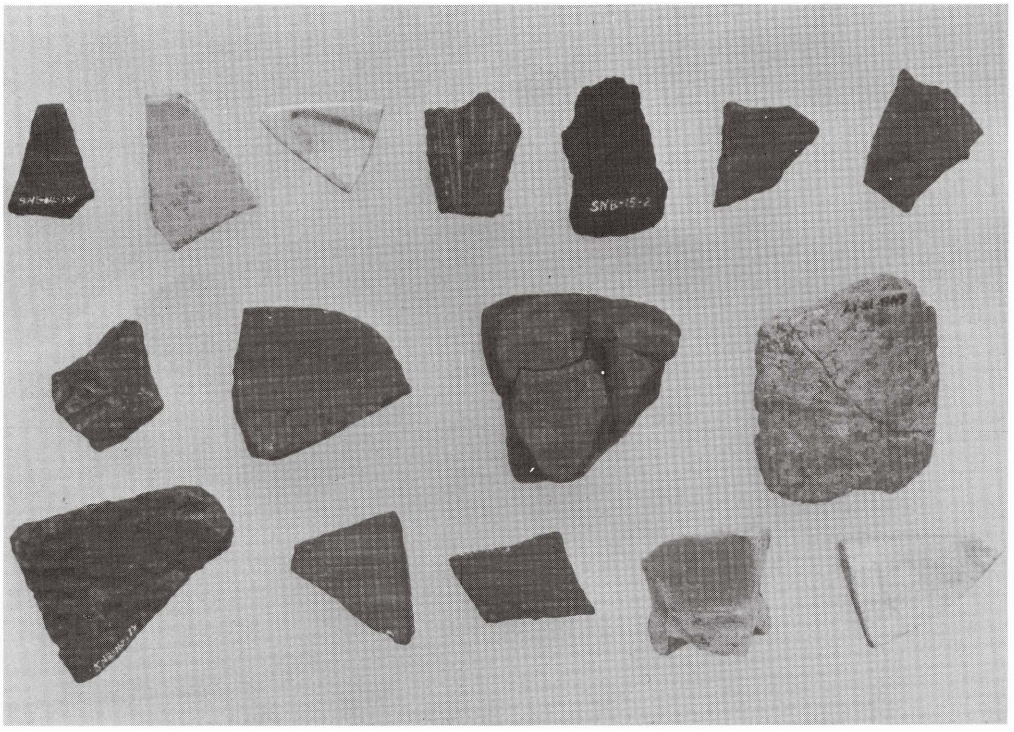
出土遺物（表）



出土遺物（裏）

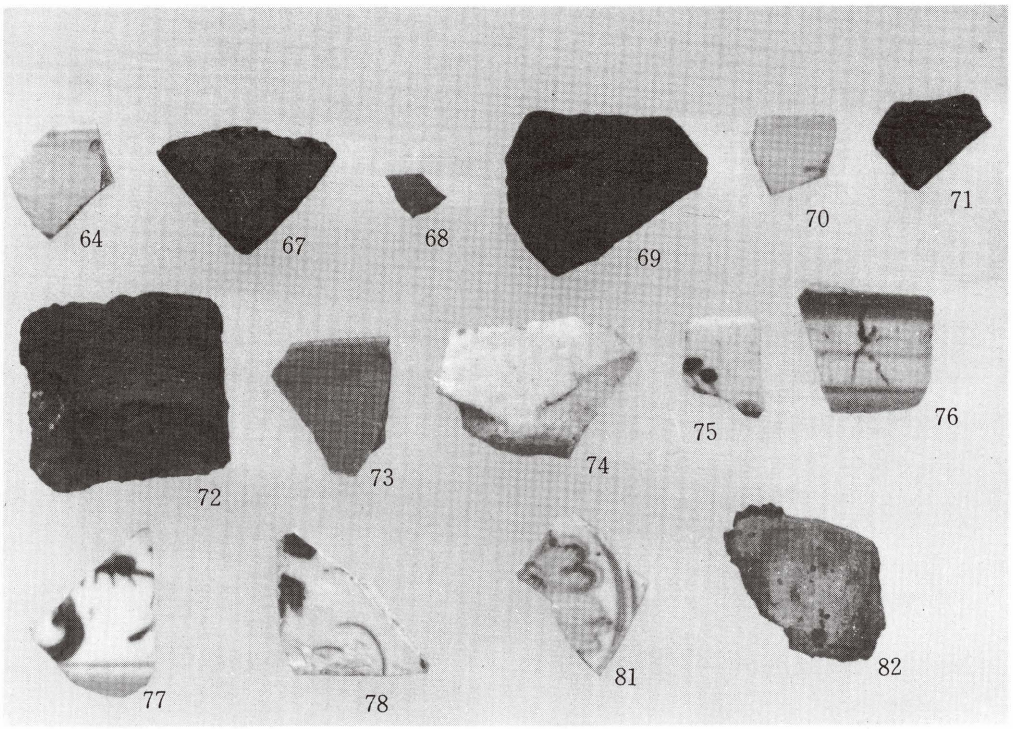


出土遺物（表）

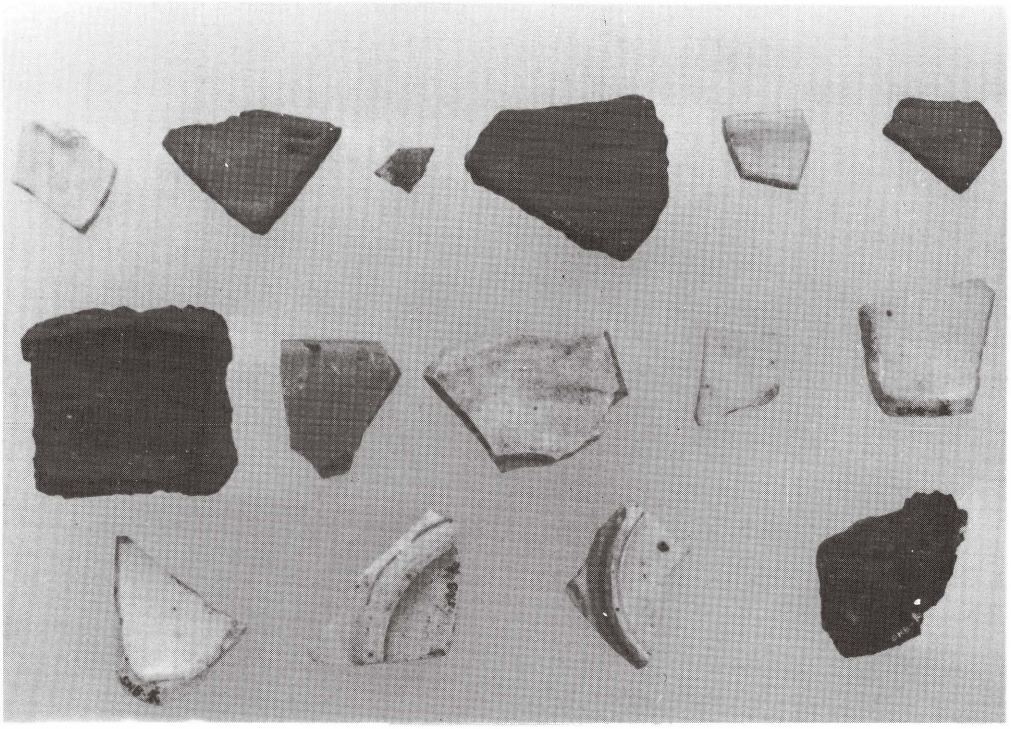


出土遺物（裏）

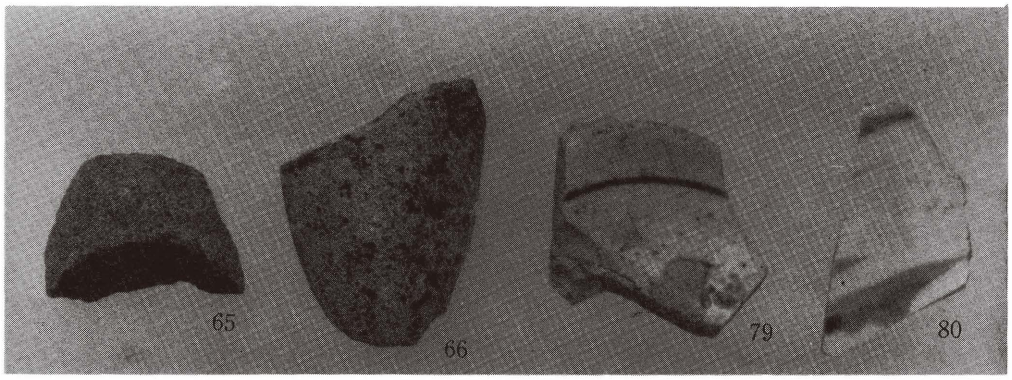
図版16

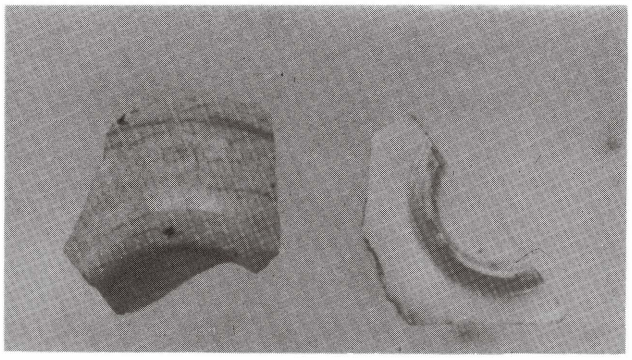


出土遺物（表）



出土遺物（裏）





出　土　遺　物

滝川小学校遺跡見学会

あ と が き

島中Ｂ遺跡の調査は梅雨前の５月～６月にかけて実施された。発掘調査は南島特有のマージと呼ばれる硬い赤土の掘り下げに終始し，困難をきわめた。調査に携わっていただいた作業員の方々は，いずれも発掘は初めての経験であったが，重労働と細心の注意を要する作業にもしだいに慣れ，サンゴが出てくるとがっかりし，遺物が出てくると喜びの声があがるようになった。このようにして，しだいに文化財に対する興味が出てきたことは発掘調査を行った大きな成果の一つであった。今後も先人の残した貴重な遺産を未来へ残していきたいものです。

最後に，現地での発掘調査と文化課収蔵庫での整理作業に携わっていただいた方々の氏名を記して，感謝の意を表したい。

発掘作業……盛克一・時元清志・野島浩一・東和子・玉利豊子・豊島照子
野島光枝・安村ユキエ・西島リキコ・東田タツエ・野島浩子
盛島ちず・森美保子・繁原文江・大倉トミ・玄之内梢・登山
信子・伏見節枝・野島浩美

整理作業……相良政子・高瀬孝子

調 査 参 加 者

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

島中B遺跡

発行日　1989年3月

発　行　喜界町教育委員会
大島郡喜界町湾61番地

印　刷　中央印刷株式会社
鹿児島市春日町12－16